業務資料 No. 796

ゆうかり

第16回移住者子弟技術研修生
研修レポート

1988年6月

国際協力事業団

移国内
JR
88－7

ゆうかり

第16回移住者子弟技術研修生
研　修　レ　ポ　ー　ト

JICA LIBRARY
1067984[3]
18196

1988年6月

国際協力事業団

国際協力事業団
18196

ま　え　が　き

国際協力事業団では，中南米各地の移住者子弟を本邦に招致し，その子弟の属する地域社会の発展に必要な技術および知識を修得せしめることを目的に移住者子弟技術研修制度を実施している。

この制度は昭和46年度に開始され，受入れた研修生は，現在研修中の第17回生および第18回生を含め，総数371名に達している。

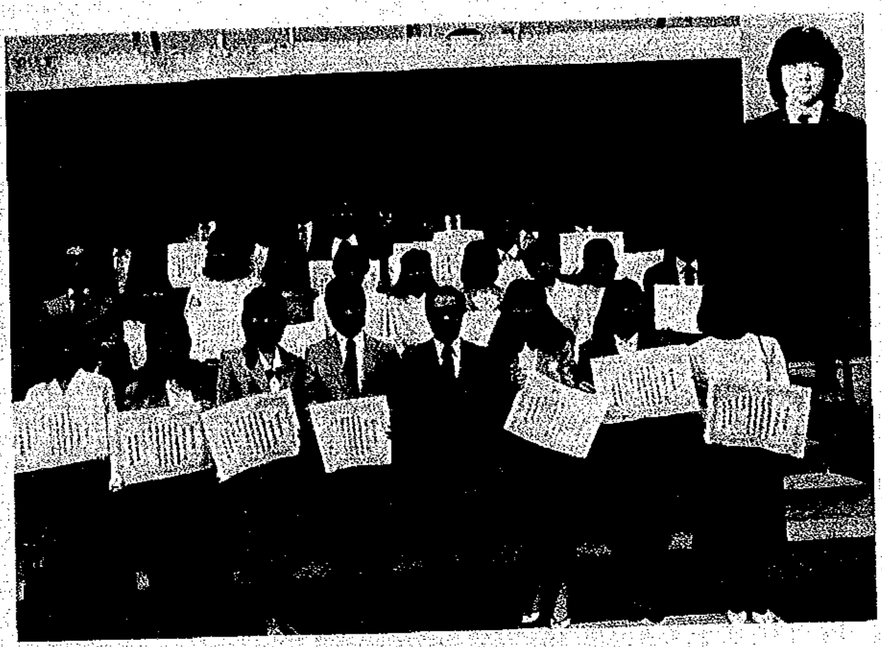
本誌は第16回生（研修期間：18ヶ月コース昭和61年4月～昭和62年9月，24ヶ月コース昭和61年4月～昭和63年3月）の研修総括報告書をまとめたものである。

各研修生は幼い頃両親に連れられて移住した人，あるいは中南米の地で生れた二世・三世の人達の中から選ばれた者であるが，父母が生れ育った国における研修は単に技術を身につけるということだけではなく，日本の文化そのものを学ぶ良い機会ともなっている。研修生諸君は帰国後，日本の社会の中で身をもって体得した技術と知識を生かし，移住地および地域社会の発展に貢献するとともに日本および中南米諸国とのかけ橋となって活躍されることと確信するものである。

最後に，移住者子弟技術研修制度に深い理解を示され，研修生を温かくご指導くださった関係機関の皆様に改めて感謝の意を表する次第である。

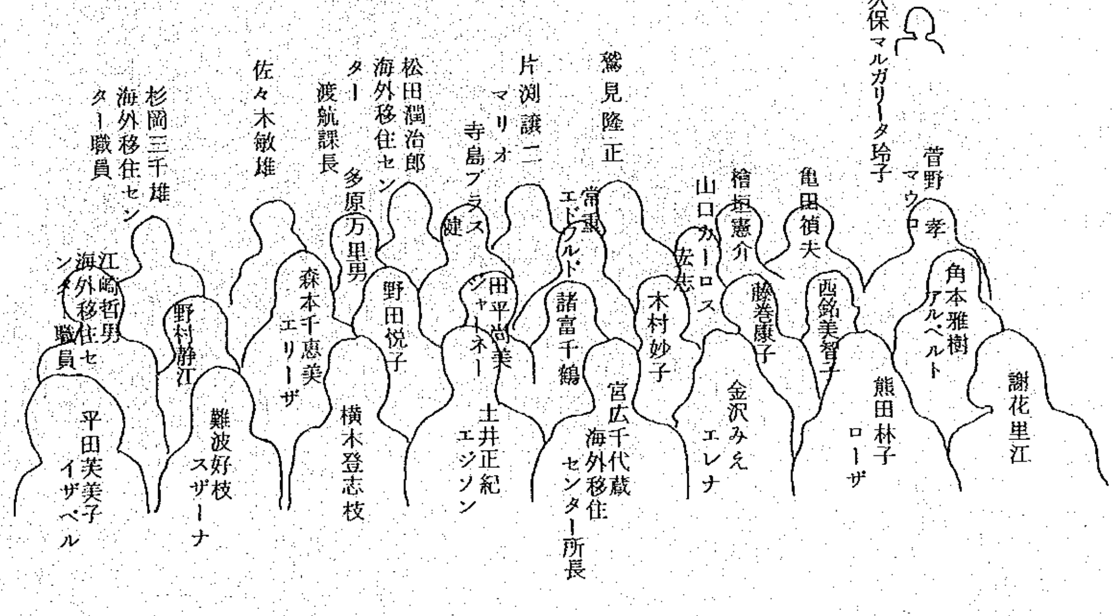
1988年6月

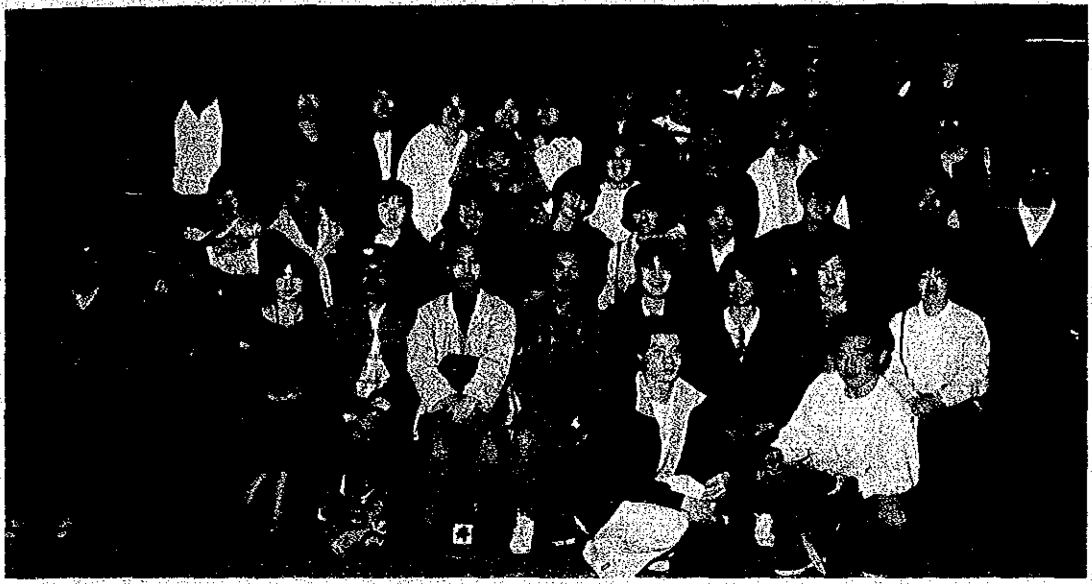
国際協力事業団
移住事業部長



研　修　修　了　記　念

（1987年9月22日　海外移住センター玄関）





合 同 研 修 旅 行

(1987 年 3 月 30 日　伊豆のホテル)

目　　次

まえがき

研修総括報告書（18ケ月コース）

1. 多原　万里男	（ブラジル	エフィゼニオ・サーレス	）……	1
2. 難波好枝スザーナ	（　〃	ベレーン	）……	2
3. 諸富千鶴	（　〃	〃	）……	4
4. 森本千恵美エリーザ	（　〃	レシフェ	）……	7
5. 田平尚美ジャーネー	（　〃	テレゾ・ポリス	）……	9
6. 土井正紀エジソン	（　〃	サン・パウロ	）……	14
7. 木村妙子	（　〃	〃	）……	15
8. 熊田林子ローザ	（　〃	クリチーバ	）……	17
9. 山口カーロス宏志	（　〃	サン・ジョアキン	）……	20
10. 菅野孝　マウロ	（　〃	ドイス・イルモン	）……	21
11. 佐々木敏雄	（　〃	インダイアツーバ	）……	22
12. 角本雅樹アルベルト	（　〃	モジ・ダス・クルーゼス	）……	24
13. 平田芙美子イザベル	（　〃	サン・ミゲール・アルカンジョ	）……	25
14. 横木登志枝	（パラグァイ	アマンバイ	）……	26
15. 檜垣憲介	（　〃	アスンシオン	）……	28
16. 金沢みえエレナ	（　〃	ラ・コルメナ	）……	32
17. 寺島　ブラス健	（アルゼンティン	ピラール	）……	35
18. 片渕譲二マリオ	（　〃	アンデス	）……	36
19. 謝花里江	（ボリヴィア	オキナワ	）……	38
20. 野田悦子	（　〃	サン・ファン	）……	40
21. 常重エドワルド	（ペルー	リマ	）……	42
22. 鷲見隆正	（ウルグァイ	モンテヴィデオ	）……	44
23. 亀田禎夫	（ドミニカ共和国	サント・ドミンゴ	）……	46

研修総括報告書（24ケ月コース）

24. 藤巻康子	（ブラジル	サン・パウロ	）……	49
25. 野村静江	（　〃	〃	）……	51
26. 久保マルガリータ玲子	（パラグァイ	アルト・パラナ	）……	54

27. 西 銘 美智子　（ボリヴィア オキナワ　）…… 57

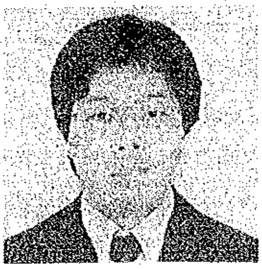
子弟研修生名簿 …… 61
子弟研修生一覧表 …… 67

注：植田千代子シルセ（ブラジル　グァピアラ）は1987年5月23日に早期帰国し，研修総括報告書は作成していない。

研修総括報告書（18ケ月コース）

多原　万里男	平田芙美子イザベル
難波好枝スザーナ	横木　登志枝
諸富　千鶴	檜垣　憲介
森本千恵美エリーザ	金沢みえエレナ
田平尚美ジャーネー	寺島　ブラス健
土井正紀エジソン	片渕譲二マリオ
木村　妙子	謝花　里江
熊田林子ローザ	野田　悦子
山口カーロス宏志	常重エドワルド
菅野孝　マウロ	鷲見　隆正
佐々木　敏雄	亀田　禎夫
角本雅樹アルベルト	

研 修 総 括 報 告 書



多　原　万里男

1. 研修機関　(1) 前期　㈱栄電社

　　　　　　(2) 後期　㈱栄電社

2. 研修期間　昭和61年4月〜昭和62年9月

3. 研修職種　ラジオ・テレビ修理（電子機器科）

4. 当初の研修計画

日本のすすんだ国でラジオ・テレビの修理技術をべんきょうしたいと思って来ました。

5. 研修概要

昭和61年5月から7月の間，名古屋西商品サービスセンターでテレビ，洗濯機，エアコン，冷蔵庫，などの出張修理を行いました。ここではただ見ることが多くじっさい自分で修理をすることが少なかったためべんきょうにはあまりなりませんでした。

昭和61年8月から62年9月の間，春日井商品サービスセンターでもちこみ修理をずっとやってきました。そこでおもにテレビの実習修理を学びました。全メーカー（ナショナル，シャープ，ビクター，日立，ゼネラル，NEC，三洋，三菱）のテレビ修理じっせんについては，カラーブラウン管とその周辺回路，カラーブラウン管の調整実習。

- 電源回路，水平回路，垂直回路，同期回路，音声回路，映像回路，色回路，チューナー中間周波回路それらすべての回路動作，こうぞう，調整，故障診断などのべんきょうをしました。
- ビデオについても一つのメーカーのものだけじゃなく全メーカーのビデオ修理実習を学びましたが，テレビほどはばひろく出きませんでした。おもにビデオのメカニズム回路を中心にべんきょうしてきました。
- ラジカセについても同じくほとんどがメカかんけいの故障が多かったので，メカニズム回路と調整のしかたをおぼえました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

自分としては当初の計画より色々とべんきょう出来たことをうれしく思っています。でも修理としてはビデオや電化商品をもっとかず多く実習修理で学びたかったです。

7. 合同研修会について

6ケ月に1回の合同研修があったおかげで自分はどれだけのものか，また，おたがいを知り合い，そしておたがいをたすけ合うことが出き，それがとてもよかったと思う。

こんごもぜひともつづけてほしいです。

8. 本邦での生活状況

この1年半日本での生活はよかったが，目がわるいため思うような研修ができなかった。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

出きるだけ日本ごをべんきょうしてきたほうが良いと思います。

10. 所感

昭和61年4月8日第16回移住者子弟技術研修生として日本へ行く事になりました。日本へ来ていろいろ自分で修理の技術を身に付けブラジルに帰国しても日本で学んだ事を二世，そして現地の方々につたえたいと思います。

国際協力事業団の職員のみなさま，栄電社のみなさま，この1年半色々とお世話になりありがとうございました。

難波好枝スザーナ

1. 研修機関 (1) 前期 山口県畜産試験場（繁殖科）
   (2) 後期 農林水産省福島種畜牧場
2. 研修期間 1986年4月～1987年9月
3. 研修職種 獣医学

4. 当初の研修計画

人工授精：家畜(牛)の人工授精について全面的に学ぶこと

受精卵移植：基礎知識及び技術の把握

5. 研修概要

人工授精：精液の採取，精液及び精子の検査，保存液の特性及び精液の希釈，精液の液状保存及び凍結保存，精液の注入

☆ 山口県畜産試験場：62．9月に子牛(♂)1頭出産

農林水産省福島種畜牧場：？

受精卵移植：

ー受精卵の構造と生理（学習）

ー供卵牛の選定条件と供用指針

ー供卵牛の飼養管理

ー過剰排卵誘起処置法

ー供卵牛の発情検査と人工授精

—受精卵の回収技術概要

—灌流液と保存液

—細胞維持の基礎理論

—受精卵維持の方法と保存液の取扱い

—受精卵の検査及び処理の方法

—受精卵の短期保存および長期保存法

—受精卵の移植：

・受卵牛の選択

・発情の同期化処置

・凍結受精卵の融解

・子宮頸管経由法による受精卵移植

精液内X，Y精子分離：

PERCOLL 密度勾配遠心法

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修計画で望んだとおりの研修が出来，その他にもいろいろと勉強できた事がとっても良かったです。

7. 合同研修会について

私達研修生全員の問題について相談し合い，解決したりできる良い機会だと思います。

研修旅行は日本の文化や歴史に少しでも多く触れることができ勉強になりました。

8. 本邦での生活状況

父母の祖国で両親と離れて，一人で生活することによって，23年間父と母に聞かされて来た国を知る事が出来，ブラジルに移住している方達にとって日本の文化，歴史などの大事さがより理解できたと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

→日本に来る前に研修計画を具体的に立てる事

→日本の生活状況を理解する様努力するのも良いと思います。日本人の考え方，行動はそれなりの社社的事情が反映しているので，余り南米的な考え方で批評しない方が良い。

→日本語能力と自分の研修科目についての知識をできるだけ持っていれば望んでいる研修以上の物が得られると思います。

10. 所感

日本で過ごした研修期間は私にとって本当に充実した毎日でした。

研修内容については自分が望んでいたとおりで月日が過ぎるとともに勉強したい事が多くなって，研修期間が短く感じられました。

日本で学んだ優れた繁殖技術をブラジルに帰って伝えることにより，日本との技術交流の一助になるよう頑張りたいと思います。

研修期間中，色々な人達と出合い，ふれあい，研修生達と友情を結び，大きな力と良い想い出になりました。そして，無事研修を終えることが出来たのも多くの人達のご支援，ご協力によるものです。本当に感謝しています。

最後になりましたが研修期間中見守って下さった国際協力事業団の皆さんにお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

諸　富　千　鶴

1. 研修機関　(1) 前期　恩賜財団済生会横浜市南部病院
　　　　　　(2) 後期　熊本県栄養士会
2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月
3. 研修職種　栄養学

4. 当初の研修計画

国立パラー連邦大学で栄養学を学び，昭和60年に卒業して，国際協力事業団の子弟技術研修生として日本に来て，研修を受けることができてとても感謝しています。

日本では，小児栄養，病態栄養についての栄養教育，栄養指導及び栄養評価などをより深く研究展開したい希望でまいりました。

5. 研修概要

前期	昭和61年　5月～8月	恩賜財団済生会横浜市南部病院
	〃 61年　9月	横浜市港南保健所
	〃 61年10月	横浜市南保健所
	〃 61年11月	国立小児病院
	〃 61年12月	神奈川県立がんセンター
	〃 62年　1月	神奈川県立こども医療センター
	〃 62年　2月	神奈川県立こども医療センターと済生会横浜市南部病院
	〃 62年　3月	恩賜財団済生会横浜市南部病院
後期	昭和62年　4月～6月	熊本県西郷病院
	〃 62年　7月	慈愛園パウラス特別養護老人ホーム
	〃 62年　8月～9月	熊本市立西保健所

前期は神奈川県の恩賜財団済生会横浜市南部病院で研修を受けることになっていました。日本人の栄養状況を広く学ぶために他の病院と保健所でも研修を受けました。

病院における患者給食は患者の病状に応じて適切な食事を与えることで，医療の一環として欠かすことのできない重要な栄養業務です。病院では栄養業務の内容として，食材管理，食数管理，作業管理，労務管理，衛生管理，帳票管理を研修しました。

病態栄養の献立の作成から，食材管理として，食品の発注，検収購入，貯蔵，出庫，そして実際に特別食を調理し，盛付，配膳しました。病院の食事の種類は一般食と特別食の二つに分かれてあります。特別食は疾病によって異なっていて，栄養士も疾病を知らなければ患者の食事の献立は作成できません。本当に疾病と栄養は大きなつながりがあることを知らされ，もっと深く学びたいという意欲がでてきて研修のはげみになりました。

また入院患者，外来患者にされている栄養指導はこれからの予防の一つの指導でもあり，栄養指導の必要性を理解することができました。

国立小児病院と神奈川県立こども医療センターでは乳幼児栄養がおもであり，離乳食と調乳があります。調乳はたくさんの特殊ミルクがあり，各ミルクについて学ぶことができ，実際に調乳作業，管理することができました。

保健所では住民への健康管理，衛生管理についての環境衛生，乳幼児健診，妊婦健診，一般健診，また区民健康相談，糖尿病，肥満，高血圧教室，老人看護教室，医療監視，スーパーや美容施設監視などの見学をさせていただきました。

各病院や保健所，老人ホームで学んだことはたくさん書ききれないほどあります。栄養士として歩きはじめたばかりの私にとっては，この１年半の研修は本当に充実していたと思います。

これらの研修の他，病院見学や老人ホーム見学，また学会，研修会，研究会，講習会，セミナーにも参加できて大変勉強になりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私が思っていたよりも，とても良い研修ができたと思います。最初は全くブラジルと違う栄養状況に驚き，また色々な面で発達していたからだと思いました。

でも国が違うということだけに食生活や疾病も異なっていて，その国の必要な健康管理のやりかたについて学ぶことができました。

いろいろな病院と保健所で研修を受けたことによって，本当に日本の栄養状況を広く学べました。

熊本県では老人ホームでも１ケ月研修することができました。これから日本は高齢化社会と言われている国です。老人栄養についてもこれからは大きな問題にあることを知らされました。

地方でも研修ができたことをとても感謝しています。

7. 合同研修会について

合同研修会は研修生全員が集まって，それぞれの研修状況について話す機会でもあり，またみんなと意見交換をしたり，先輩のアドバイスを聞いたり，私達研修生のお互いの日本での色々な経験，悩み，苦しみ，楽しみ等についても話せる大切な機会だと思いました。

慣れない日本の生活状況，社会，人間関係や色々な面でたまったストレス解消にもなる場所でもありました。

この研修会によって研修生同士の友情が一層深まったような気がします。本当にみんなとたくさんの思い出が出来ました。とても大切な合同研修会だと思うので，これからも続けてほしいと願っています。

8. 本邦での生活状況

前期の１年間は海外移住センターで15回生，16回生と日語教師ＢコースとＡコースと一緒に生活しました。私にとっては初めての団体生活で，少し不安でしたけれど，月日が過ぎていくうちに，不安は消えていき，とても楽しくなりました。よくお互いの悩みを分け合ったり，共に喜び，悲しみ，楽しんだり，夜遅くまで話したものです。

またみんなと自炊したり，連休や休みには研修生達と一緒に旅行したり，秋には紅葉を日光に見に行ったり，冬にはスキーを楽しんだり，日本の四季を味わうことができて最高でした。みんな１年も一緒に生活をしていると，親しくなり，本当に姉妹みたいになります。

後期の半年間は熊本県でアパート生活を３人でしました。また横浜の海外移住センターとは違った生活環境でした。熊本県では日本人の友達がたくさんできました。アパート生活は自由ですけれど，もっと自分なりの責任感は強くなったと思います。

日本の文化も少しでも身につけたいため，生け花，書道，茶道，着物の着付，焼物も少し学びました。色々な角度で私を成長させてくれたと思います。

初めての団体生活だったけど，とても良い経験になり，本当に一生忘れられない日本の生活だと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来てから自分の日本語がとても不自由なので，研修で困りました。ですからできるだけ日本語をしっかり学んできてほしいと思います。もし時間があったら少しでも専門用語も学んでほしいと思います。そうしたら不自由なしに学びたいことがもっとマスターできると思います。

もう一つの要望は日本に研修に来る前に，できるだけ自分が本当に学びたい物をはっきりして来た方がいいと思います。でないと日本に来て不安になることが多いのではないかと思いました。

10. 所感

１年半の研修を終えてふり返って見ると，本当に昨日のような気がします。昨年の４月に日本に着

いた時，桜の花がとても印象的だったのを今でもはっきり覚えています。

父母の国で研修を受けることができて，とても感謝しています。

日本語研修から始まり，病院や保健所など色々な所で研修を受けて，学ぶことがたくさんありました。栄養学の勉学だけではなく，日本の社会的な面も勉強になりました。

日本で研修した全部が同じようにはできないけれど，できるだけ色々な方法で役立たせたいと思っています。これからのブラジルの栄養改善のために尽していきたいと思います。

国際協力事業団の皆様をはじめ，熊本県栄養士会の皆様，研修先の皆様，そして同期の研修生達，本当に心に残る思い出を作ることができたことを心から感謝しています。本当にありがとうございました。心からお礼を申し上げます。

森本千恵美エリーザ

1. 研修機関　(1) 前期　富士銀行大阪支店

　　　　　　(2) 後期　富士銀行本店（東京）

2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月

3. 研修職種　銀行経理

4. 当初の研修計画

日本はあらゆる分野が進んでいるので今まで知らないことや学ぶことがたくさんあると希望いたし，研修計画は銀行経理及びシステムについて学びたいと考え，又日本語勉強もしたくこの研修に臨みました。

5. 研修概要

外国為替：

輸出
- 輸出信用状荷為替手形しくみ
- 信用状付輸出荷為替の買取（BB）
- 信用状なし輸出荷為替の買取（DPA）
- 輸出荷為替の取立（BC）

輸入
- 輸入信用状の開設
- 輸入信用状の条件変更
- 信用状付輸入荷為替の接受，決済（クリーン，リンバースとレミッタンス方式）

両替（外国通貨，旅行小切手の売渡と買取）

送金（仕向送金，普通送金と電信送金）（送金小切手）

被仕向送金（IMT，ITTとIDD）

本店預金替課：

○普通預金　○ローン（貸付）　○マイカープラン

○定期預金　○住宅ローン　○フリーローン

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私はブラジルでは銀行につとめていました。日本へ来て銀行の専門用語，コンピューター，システムやその他少しでも学び実際皆と同じようにやりたい目的でしたが，希望どおりうまくいかなかったのが少し残念だと思います。しかし後期研修は，前期研修より計画どおり少し良く学ぶことが出き，たとえば貸付，普通預金，定期預金など少し理解出きました。

7. 合同研修会について

この1年半に行なわれた2回の合同研修は私にとって“ホット”一息をつける機会でした。毎日忙しい現場研修の中でちょっとした休憩と言うような感じで皆横浜センターに集って仲間達と会えることが一番楽しいことでした。それぞれ研修先のことや，なやみごとなどいろいろな面でおたがいどうしが話しあったり，そうだんにのることができ皆といい友達になるチャンスでした。又研修旅行では日本の文化，歴史や自然などが見られてとても良い見学になりました。パーティーなどでは一時全員で楽しくポルトガル語，スペイン語，日本語などそれぞれの国の言葉で話しあったり明るく過しました。良い思い出ばかりです。合同研修会は人間関係にとってとても大切な経験だと思いました。

8. 本邦での生活状況

私は最初の1年間大阪の親せきであるおばさんの家にお世話になりました。皆とバラバラになってさみしくなると思いましたがおばさんやいとこ達にたいへん親切にしていただき，又同じ留学生達からも手紙をもらったり，電話で話しあったりしていたのでさみしい思いはしませんでした。日本語も正確に話せなく，聞く方もあまり意味がわからず，漢字も読めない私にとって日本の生活になれるまでとても不安な気持でした。さらに日本とブラジルの国民性の違いもあってこまったこともありました。又買物に出かけ道がわからない時，お店の人や近くにいる人にたずねると，けげんな顔で見られたりもしました。日本人と同じ顔をしているのにどうしてこんなことを聞くのだろうと感じたのかもしれません。その時必ず私はブラジルから来ていますと説明をしました。そうするとすぐ親切に教えていただきました。日本での生活は私の人生にとってとても良い経験だったと思います。一生忘れることはないでしょう。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

○できるだけ日本語を読めるように，話せるように学んで来て欲しいと思います。

○研修内容ややりたいことをはっきりすること，又研修先には勉強するプログラムを作って欲しいと思います。

○旅行もいつものようにJICAでやって欲しい。見学として一つの勉強にもなると思う。

10. 所感

この1年半を振り返って見るとあっと言うまに過ぎてしまいました。昨年の4月8日に私は日本に着きました。寒い日で皆がふるえたことを思い出し，この間のような気がします。桜の花がちょうど散り始めていたころで，すばらしい日本の春をこの目で見ることが出きてとても印象的でした。日本へ来て色々なことにおどろきました。一つはどこへ行ってもいそがしそうに歩いている人達の姿です。又朝夕の電車のラッシュです。こんなにもごちゃごちゃとしている中で皆時間を1分もむだにしないようにと時間におわれながらもきちんと生活しているのは感心しました。

日本はすべて発達しており，ほしいもの，買いたい物何でも手に入れることが出きます。又，あまり不自由な暮しをしていないことをうらやましいと思います。ブラジルもどのようにしたらこれほどの国になるのだろうかと時々思います。

それからこの研修期間中富士銀行で学んだことを自分のためだけでなく，国へ帰ったら働いている銀行に私の知っていることをできるだけ多く役に立てるようにしたいと思います。そして研修だけではなく，日本での生活や経験したことのすべてをブラジルに住んでいる日系人，たくさんの人達に日本の良い所，悪い所色んなことを伝えて話してきかせてあげたいと思います。日本という国で仕事と生活を体験できたことはほんとうによかったです。

この機会をあたえて下さった国際協力事業団の皆さん，又富士銀行の皆さんのご協力，心から感謝しております。長い間たいへんお世話になりまして，本当にどうもありがとうございました。

田平尚美ジャーネー

1. 研修機関　(1) 前期　熊本県栄養士会
　　　　　　(2) 後期　熊本県栄養士会
2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月
3. 研修職種　栄養学(日本の食生活の現状と実際の調理に関する研修)

4. 当初の研修計画

日本料理を学びたいというのは，日本料理が世界的ブームだからで，栄養学を学んでいるのは，人間が生きて行くために食べる事が必要で，ぜったい欠く事が出来ない大切な事だと思うからです。

学校給食，幼児食，老人食，病食等の調理実習でした。

栄養学の勉強だけではなく，日本での毎日の生活で，日本の社会，文化，習慣も理解できました。生け花，お茶，お習字のけいこもしました。

5. 研修概要

熊本県栄養士会を通しての研修先

1－S 61年 5月～ 7月 熊本商科大学食堂部

2－S 61年 8月～ 9月 慈愛園・パウラス老人ホーム

3－ 10月～11月 熊本県マリスト高等学校の食堂部（男子校であり，寮生です）

4－S 61年12月～62年1月 西郷病院

5－S 62年 2月 五福小学校・学校給食

6－S 62年 3月 慈愛園・パウラス老人ホーム

7－S 62年 4月～5月 幼稚園・アカデミー学園

8－S 62年 6月 城西中学校・学校給食センター

9－S 62年 7月 藤園中学校・学校給食センター

10－S 62年8月 熊本県マリスト高等学校

S 61年5月から S 62年4月まで 毎週1回金曜日 九州女学院短期大学調理実習授業参加

S 61年5月～7月 毎週1回水曜日 熊本県立女子大学 〃 〃

S 61年8月から 62年3月まで 毎週1回火曜日 熊本勤労婦人センター料理教室調理実習授業参加

S 62年4月～8月 毎週1回水曜日 熊本母子福祉センター料理教室 〃 〃

熊本県栄養士会に大変お世話になり，ここで栄養学と日本の食生活を熊本商科大学，パウラス老人ホーム，マリスト高等学校，西郷病院，五福小学校，幼稚園，アカデミー学園，城西と藤園中学校の給食実習を通して学びました。また，毎週1回，九州女学院短期大学と熊本女子大学調理実習授業に参加し，毎週1回料理教室センターの授業に参加しました。

幼児期は乳児期についで発育の盛んな時期ですが，栄養の面では，体の小さい割には，たん白質，カルシウムを中心として，たくさんの栄養素が必要です。こうした栄養素をバランスよく摂るには，偏食のない正しい食習慣を身につけさせなければなりません。

学童の時期は発育のスピードが比較的安定しています。高学年になると思春期の入口にさしかかるので，かなり大きな個人差がみられるようになります。この時期の食生活には，たん白質と緑の野菜を十分に，カルシウムをたっぷりとるように。

学校給食センターで研修を受け，熊本市の学校給食は共同調理場で，共同献立で共同購入ですが，カルシウムをとるために200cc の牛乳を毎日献立へ加えていました。学校給食は1つの栄養教育で

す。

幼児期と老人期の調理法はにていると思います。材料は小さく切って，食べやすいようによく煮込むことと塩分をひかえめにです。

日本料理は昔から米食中心の食生活が続いて来ています。また，四季の変化に富み季節に応じて，農産物や魚介類等の材料に恵まれているため，「旬」と言われる出盛り材料の色や風味を大切にして，その持ち味を生かした調理法が発達しています。

最近，西洋料理，中華料理が日本でブームなので，脂肪のとり過ぎだと言われ，脂肪は少な過ぎても多過ぎても問題です。脂肪が不足すると，脳卒中，高血圧がおこりやすい。脂肪をとり過ぎると高脂血症，心ぞう病，肥満をおこしやすいです。

健康で生きるためには，体の中に必要な栄養素を含む食品を上手にとり入れなければなりません。１日３０種類以上の食品をとるように努力すれば，自然にバランスのとれた食事になり，食品を主に含まれる栄養素によって６つのグループに分けています。６つのグループの中から毎日少しずつとれば良い食生活ができます。

1群	魚，肉，卵，大豆，大豆製品	体を作る元になる。
2群	牛乳，乳製品，海草，小魚類	
3群	緑黄色野菜	体の調子をととのえる。
4群	その他の野菜，果物	
5群	米，パン，めん類，いも，砂糖	エネルギーの元になる。
6群	油脂類	

この点，良い食生活で生きることのPOINTとしています。

調理実習で少量でも多量でも，1つの料理がおいしくできあがるように色んな料理を覚えました。

加工冷凍食品を給食でも家庭でも使っているのをみてびっくりしました。けれど病院，老人ホーム，寮生の給食には出来るだけ冷凍食品は使っていませんでした。

また，場所によって，活動，治療食内容，仕方がちがって栄養指導方法等学ぶ事ができました。

給食調理場，YAKULT 工場，給食弘済会，市場会館，有機農業等を見学させていただきました。

帰国後，日本で覚えたことを生かしたいと思っています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は学校で栄養学の勉強をすると思いました。日本語が下手で，かんじの読み書きが出来なく，学校でしたらたったの1年半の日本での 研修生活に苦労すると先生方が思って下さって，私があまり苦労のないように，色んな所へ実習に行かせるようになり，色んな人と出会い，友達もいっぱい出来ました。

調理実習ばかりであまりおもしろくないと思いましたが，やり始めて色んなことをしっかり見て聞

いたり，だんだんきょうみがでてきました。

毎月研修場所がかわって，何にも分からない私にとっては，中途半端なところがあります。けれど料理だけではなく，研修場所で色んなチャンスを得ることができました。たとえば，にがてな自己紹介を200人の前でし，ワープロのうちかた，生徒と教室で給食を食べてブラジルと日本の話をし，日本の学校の教育も見せていただきました。満足しています。

7. 合同研修会について

移住センターで日本語の講習を終えてそれぞれ研修先へ行ってから一番の楽しみは9月の合同研修会で全員に会うことでした。9月になり，15回生，16回生全員集まって，大感げきでした。

合同研修の初日の夜，おたがいに話す事が多く，1時間だけ眠ったこともありました。話題は研修の事，悩み，友達，先生方，職場の皆さん，人間関係，旅行，生活状況，遊び等……。相手の話を聞きながら，自分の事を振り返って見て分かった事がありました。それは自分で自分をよく知り，研修や生活をするのが大切だということです。

17回生との9月の合同研修はないのでがっかりしました。私達にとっては全員集まるのが必要です。合同研修をストップしないようにどうかおねがいいたします。

8. 本邦での生活状況

振り返って見ると，1年半は短い期間でした。最初の1ケ月間，移住センターで日本語の勉強，生活習慣等の講習があって，とてもいい勉強になりました。その間，横浜市や東京都を見学し，あれもめずらしい，これもめずらしい，また，電車に初めて乗り，まわりは日本人ばかりで「本当に日本へ来ているのよね…」と思っていました。

デパートあたりではかなり具体的で，笑顔でお客様のお出迎え，親切でにこにこして案内し，はっきりと分かりやすい言葉づかいでした。デパート，食料品売場，バスガイド等，それぞれちがって面白いと思いました。

日本語の講習が終わり研修生はバラバラちらばって，私は熊本市で研修を受けるようになりました。研修生がもう一人来れば良かったのに……と思いながら，学長さん，所長さんや先生方へあいさつが始まりました。

日本で生活を始めると，日本はとても便利で島国であり，小さい土地に人が多く，色々工夫していることがわかりました。日本の技術が工業的，または科学的に進んだのも単一民族，働き者，努力，教育，文化等全部に関係していると思います。

しっぱいはいっぱい……

バスに乗る時，ちがった方向へ行ったり，くつをぬいだり，また日本人と話している時ポルトガル語が出たり，目上の人を「おじさん」「おばさん」と呼んだり……。けれど一番困った事は，日本人の顔をしていても言葉と生活習慣がちがうことでした。たとえば，リオ・デ・ジャネイロでは，妹，

友達，いとこ達とはポルトガル語で話し，両親とはかたことの日本語を話す機会があったけれど，かんじの読み書きができていなかったのが日本へ来てマイナスだったと思います。

色んな人と出会って来ましたが，ちがったせいかく，ちがった考え方，ちがった場所で色んな話がありました。話題はいつもブラジルと日本の習慣，私が日本へ来て思っている印象等でした。

ブラジルと日本の交流はずっと続いてほしいです。ポルトガル語の方がたぶん弱いと思うんですが，敬語があります。でも，たしかに日本語のある敬語はそれなりにレベルがちがうから，最初はどうやって使うか，どういうふうに見分けなければいけないかとか，それが分かるまで私自身少し苦労しました。だんだん日本人とのつきあいになれると色々と分かって来たり，自然になれて来ました。

さて，自分を見ると，20才，1年半日本で研修生活をし，色々と理解し，家族から初めてこうしてはなれて来て，最初はとてもこわかったけれど生活はうまくできたと思います。

国際協力事業団の皆様にいつまでも感しゃしています。本当にありがとうございました。日本での研修生活，友達，先生方はいつまでも大切にしまっておきます。今後の子弟研修制度もどうぞよろしくおねがいします。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

今後の研修生全員にも移住センターで1ケ月間の日本語及び生活習慣等の講習を受けたら良いと思います。

日本語をできるだけ多く勉強してから日本へ来ること。研修先へできれば2人研修生を行かせると良いと思います。

友達を作って，困っている時，ホームシックの時，自分1人で悩まず，友達と話すことが大切です。

10. 所感

やりたい事はいっぱいあります。

1. 帰国後，栄養学の大学へ入学したいです。
2. 1がだめになったら，料理や栄養学関係の仕事をしたいです。
3. ブラジル人や日系人に日本と洋風料理を教えたいと思っています。

リオ・デ・ジャネイロの病院，食堂，レストラン等の調理室を見学させてもらいたい。

ブラジルではまずしい生活をしている人が多いので，栄養不足でどんな食事をしているか知りたい。

土井正紀エジソン

1. 研修機関　(1) 前期　ユニバーサル電子計算株式会社

(2) 後期　ユニコム・オートメーション株式会社(ユニバーサル電子計算株式会社の関連会社)

2. 研修期間　1986年4月～1987年9月

3. 研修職種　コンピューター(ソフトウェア開発)

4. 当初の研修計画

- 通信(アセンブラー言語を使用)
- CAD－CAM
- マイクロ・コンピューターについての知識
- ON－LINE関係
- データー・ベース

5. 研修概要

- アセンブラーZ80の基礎知識
- "C"言語の基礎知識
- VAXデータ・ベース(FORTRAN, DTR, RDB, FMS)
- 通信(RS－232C)の基礎知識
- アセンブラー8085
- BASICの使い方
- ハードウェアの基礎知識
- プログラムの設計からドキュメント作成までの知識

6. 当修の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の計画とは多少内容が異なった様です。多分，子弟研修生制度がどんなものかを良く調べずに計画をたてたのがいけなかったのでしょう。でも何も学ぶ事が出来なかったと言ったら，それはうそでしょう。なぜかと言いますと，私は，私なりに一生懸念にやったつもりです。だから色々と研修の他に日本でしか学べないこと，それは風習，人とのつきあい，生活などについて学ぶ事が出来ました。

7. 合同研修会について

色々と問題点があったが，私達研修生にとっては，半年に一度全員が集まるということは大変重要です。

8. 本邦での生活状況

移住センターでの生活は仲間がいるので楽しい事が沢山ありました。でも，自由を奪われるという

ことでライオンが動物園のおりの中に入れられて生活をするつらさが十分にわかった様な気がします。規則があるということは大変良いことです。でも昼夜，監視されながら生活するのはとてもいやなことです。だから，私はできるだけ自由にやってきました。センターの職員の方達には大変迷惑をかけたとは思いますが，御陰様で会社の人達とも楽しい研修期間を過ごすことが出来，そして又，色々と学ぶことが出来ました。決して誤った方法だったとは思っていません。多少きつい書き方かもしれませんが，私はただ単に自分が感じたこと，したことをそのまま書いているだけのことです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

ただ一言言えるのは：

たとえ研修であろうと，遊びであろうと，何事も悔いの残らないように，一生懸命，そして楽しくやることが大事だということです。

10. 所感

帰国後の計画はまだ何もありません。国に帰ってから冷静に考えるつもりです。なぜかと言いますと，私が日本で学んだ事がブラジルでどこまで通用するかということがわからないからです。

最後に：

研修で良い成果をあげることが出来たか，又は出来なかったかは関係なく，なんらかの形で色々と良くしてくれた国際協力事業団の皆様方，この1年半大変お世話になり，誠にありがとうございました。そして，研修先で色々とお世話して下さった皆様方，会社の仲間達，研修生仲間達，この1年半大変良い思い出を沢山つくることが出来，心から感謝しております。

私は日本へ研修に来たことを決して後悔はしていません。それでは皆さん……またあう日まで……

木　村　妙　子

1. 研修機関　(1) 前期　淑徳保育生活文化専門学校
　　　　　　(2) 後期　　同　上
2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月
3. 研修職種　幼児教育（保母）

4. 当初の研修計画

日本のすぐれた教育を学び，いろいろと体験し，ブラジルの人達に伝える事が目標でした。

5. 研修概要

1年半を通して淑徳保育生活文化専門学校で研修をさせていただきました。

前期研修科目内容（61年4月～62年3月）

○歴史，法学，心理学，社会学，生物学，体育，英語，音楽，図画工作，小児保健，社会福祉，児童福祉，養護原理，教育原理，発達心理学，健康，保育原理，養護内容，乳児保育，実習指導，宗教

後期研修（62年4月～8月）

言語，オルフ，自然，社会福祉Ⅱ，小児栄養，音楽リズム，保育原理Ⅱ，体育，絵画製作，教育法規，保育内容総論，養護原理Ⅱ

61年　9月－茂呂塾保育園実習

61年10月－淑徳幼稚園実習

62年　6月－あかいとり幼稚園実習

実習では幼稚園や保育園および施設の雰囲気を体験し，幼児との接し方，子どもの立場に立ち，その子の物の見方，考え方に立って，その子を見たり考えたり，又先生の指導の仕方，園のさまざまな仕事を見学したり，参加することができました。

すばらしい先生方に囲まれいろいろとアドバイスを受けながら，無事に研修を終えることができ心から感謝しています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

日本のすぐれた幼児教育を学ぶ事でした。思い通りに勉強をすることができ自分が予想していた以上に広く学習することができ満足しています。

7. 合同研修会について

合同研修会で仲間と会う事が何よりの楽しみでした。特に初めの6ケ月はまだ研修先にも慣れず，生活や日本の習慣にもなじめないため皆と会う事が一番の楽しみでもありました。お互い研修で辛い事，悩み事など語りあえる場でもあり，先輩のアドバイスも大変ためになりました。

8. 本邦での生活状況

私は研修生の熊田さんと共にアパート生活をすることになり，親せきや知り合いの方に親切にしていただき，必要品などを貸していただきました。学校はアパートから約10分のところでとても便利で助かりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本語の読み書きを必要とするので，ある程度勉強しておく事が大切だと思います。そして自分の目的をしっかり決めてきた方が良いと思います。

10. 所感

長いようで短かったこの1年半，いろいろと楽しい事，辛い事もありましたが，今では日本での生活にもすっかり慣れ，多くの人と接し，交流ができ本当によかったと思います。研修初めの頃は授業を受けていても内容をよくつかめず辛い時もありましたが，時が経つにつれて少しずつ分かってくる

ようになりました。又日本に来たからこそ知りえた多くの知識や情報も貴重な財産となりました。

日本で学んだ事をどれだけ生かす事ができるか分かりませんが，多くの二世三世の日系人の子どもたちに日本語や日本の文化を伝えていきたいと思います。これから保母さんになることをめざして保育者として基礎をしっかり固めて，生涯にわたって努力していく覚悟であります。

最後になりましたが，国際協力事業団の皆様1年半本当にお世話になりました。おかげ様で良い研修，そして楽しい思い出を作る事ができ心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

熊田林子ローザ

1. 研修機関　(1) 前期　東京都立衛生研究所
　　　　　　(2) 後期　　　同上
2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月
3. 研修職種　食品衛生

4. 当初の研修計画

薬学を修め，以前からブラジルで衛生が行きとどいていないため多発する食中毒事件（おもに細菌性食中毒）に深く興味を持っていました。また，小さい時から日本にたいへんあこがれていました。そこでぜひこれら衛生面について日本で勉強したいと願っていました。

5. 研修概要

1. 食品研究科：a 食品化学研究室：一般に市販されている食品に保存，漂白などの目的で使用されている保存料，甘味料，着色料，漂白料などの化学検査について学びました。これらは食品衛生法に規格基準が定められており，試験法などもある程度定められています。しかし，まだ試験法や使用基準が決まっていない化学物質については少々悩まされる状態です。当室では液体クロマトグラフィー，ガスクロマトグラフィー，原子吸光，紫外部吸収分析計，ポーラログラフィー，デンシトメトリー，コンピューターなど，ブラジルでは一般的に普及していない機器利用法などを学ぶことができました。

b 中毒化学研究室：当室では化学性食中毒の原因究明と野菜中の残留農薬の分析法について学びました。

日本では化学性食中毒は近年減少しつつあり，今問題となっているのは農薬の散布中での吸引による急性中毒です。

日本では食品の安全性の監視はきびしく，検査は液体クロマトグラフィーやガスクロマトグラフィーを用いて分析します。

II. 細菌研究科：

a. 食品細菌研究室：一般に流通している食品の細菌汚染調査また市販食品の安全性，つまり衛生の監理及び検査について学びました。またこの部屋の研究テーマである黄色ブドウ球菌について，エンテロトキシン検出法やコアグラーゼ型別など詳細に勉強しました。

b. 食中毒研究室：やはり日本のように衛生監理が厳しい国でも食生活（生ものを多く食べる習慣）のため，夏には特に細菌性食中毒が多発します。これらの原因菌追究や検査法を学びました。

c. 真菌研究室（カビ）：近年，食品中のカビ汚染に注目がよせられるようになったのは，カビ（真菌）によって産生されるマイコトキシン類に発ガン性があることが判明したためである。日常多く摂取される食品（穀類，豆類など）が汚染されていることが明らかになり，また，マイコトキシン（カビ毒）を産生する菌としない菌があり，菌型の判定が重要となった。

d. 腸内細菌研究室：近年海外旅行者が増えつつあり，これらの目的地は主にハワイ，東南アジアです。これらの国々ではまだ衛生が行きとどいていないため，コレラ，チフス，赤痢など伝染病がまん延しているのでその防疫が必要である。そのため，旅行中や帰国後に下痢などの症状を示した者のふん便検査を行います。

III. 水質研究科：

人間が生きて行くためには空気，水などを必要とします。特に水は日常生活で欠かせない。しかし，水といっても飲料水として使用されるには数十項目に及ぶ水質基準（国によって少々異なる）に適合していなければなりません。各項目について基準に基づいて検査法を学びました。

IV. 乳肉衛生研究科：

ここでは抗生物質の分析法について学びました。

近年，疾病予防や成長促進のために抗生物質を多量に動物に使用しています。食品衛生法では食品には抗生物質がいっさい検出されてはならない。したがって，使用は可能であるが食品に残留することは認められていない。

V. 生薬研究室：

疾病の化学物質による治療は副作用などの問題があり，最近では天然物（動植物等）を用いたり，天然成分と化学薬品の混合物等を用いる事が多くなってきています。天然成分の検査は難しく，それ自体の分解や他成分との反応などが起こるからです。

以前から生薬にとても興味を持っていた私は，帰国してから機械不足の我国でも応用できるように簡便な方法とさらに高度な機器類を用いる方法の両方を学びました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

帰国後どのような職種につくか全然見当がつかなく，しかも大学での知識以外ブラジルの食品衛生状況など，あまりにも世間知らずで衛研の先生方にたいへんお手数をかけました。しかし予想以上に

色々学ぶことができ，JICAの皆様，都衛研の皆様に深く感謝しています。

7. 合同研修会について

日本に着いた直後から東京にアパートを借りて友達と一緒に住むことになりました。そのため1カ月間の日本語講習も受けられず，みんなともあまり過ごせませんでした。研修旅行が中止になりとても残念でした。今回後輩達が参加できなかったのも残念でした。それぞれの研修の成果，体験，生活状況，また先輩からのアドバイスなど話し合う機会はたいへん有効であり，これからもこのような時をもうけてほしいと思います。

8. 本邦での生活状況

日本に来てわずか1週間後アパートを借り，生活道具をそろえるのはたいへんでした。しかし，一番心強かったのは友達と一緒ということでした。

また，衛生研究所の人達が私を妹のようにかわいがってくれ，何かとお世話してくださり，あまり不自由はしませんでした。しかし，日本の物価が高いのには驚きました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

JICAへの要望は次のとおりです。

1）合同研修にはぜひ各支部の担当者に出席していただき，私達の要望を聞いてもらいたい。

2）合同研修は以前のように先輩，後輩が参加できるようにしてほしい。

3）アパート住まいの人達に対してもう少し配慮してほしい。

10. 所感

幼い頃から憧れていた日本へ来ることができて夢のようでした。日本語や食生活には苦労しませんでした。日本は四季がはっきりしていて，春には美しい桜の花，梅雨にはロマンチックな長雨が，夏の蒸し暑くて眠れない夜や秋のすばらしい紅葉，冬は生まれて初めて雪を見，スキーまですることができました。季節ごとに感動していた私です。

アパート住まいの私達は自炊をしたり，また研究所の人達に夕食をごちそうになったり，楽しい毎日を過ごしました。

研修で最初，専門用語がわからなく少々苦労しました。しかし，この1年半，日本人の習慣，生活，考え方，また美しい風景や最先端技術を身につけること，また文学や美術などにふれる機会，予想できないほど数多くの体験ができた事を心から感謝しています。帰国後もこれらの技術を活かして行きたいと強く願っています。

国際協力事業団の皆様，関東支部のみなさま，担当してくださった三ツ林さん，友永さん，そして親切に指導してくださった都立衛生研究所の皆様，長い間お世話になりました。この1年半は生涯における最高の宝物になるでしょう。ありがとうございました。

山口カーロス宏志

1. 研修機関　(1) 前期　青森県りんご試験場
　　　　　　(2) 後期　須藤晃良様方（農場）
2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月
3. 研修職種　果樹（りんご栽培）

4. 当初の研修計画

りんご栽培技術一般，土壌病害（クランロット，紋羽病など），台木の種類と育成など

5. 研修概要

人工授粉（花粉調整），マメコバチによる授粉（マメコバチの習性，訪花観察），施肥方法（りんごにおける施肥の実際），摘果（手による摘果適正着果量），病害虫研修（病害の見分け方），除草剤（除草剤の種類と利用法），りんご園土壌の診断（PH測定，その他の土壌分析），着色手入れ（葉つみ，つる回し），紋羽病の治療（治療処理後の回復調査），花芽調査（花芽，葉芽の見分け方，調査方法），りんごの有機物（堆肥づくりの実際），交配実生の採種（種子とりと保存），りんご防除暦（りんご防除暦の編成と意義），りんごの休眠（休眠期間と耐寒性），りんごのウィルスフリー（熱処理によるウィルスフリーとウィルス検定），剪定実習（普通樹の剪定）と（わい性樹の剪定）

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

比較してちがいはありません。ただし計画より勉強はできました。

7. 合同研修会について

非常に大事だと思いますが，今年からなくなるので残念だと思います。

8. 本邦での生活状況

食べ物についてはかえって日本食の方がおいしいので沢山食べました。あとは問題はありません。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

できるだけ予算をけずらないで下さい。できれば又合同研修会をつづけてもらいたい。

10. 所感

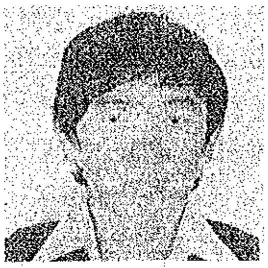
日本で勉強ができるのは誰もの夢だと思いますが，私も日本で一度は勉強したいなあと思っていました。来る時はいろいろ家の仕事のことで来たくなかったのですが，サンジョアキンの皆さんからも応援されて来ることができました。

日本へ着くと桜の花が咲き始めてあっという間に満開になりました。短い間に慣れて勉強ができるようになりました。最初の1ケ月は日本語の講習を受けて5月から私が希望したりんご栽培技術について青森県のりんご試験場で研修を始めました。試験場へ着いた時は少し不安だったけれども，すぐ先生方と友達になりまして私が思うよりも大変勉強が出来ました。

試験場での研修は今年の3月で終わり，4月からは(民間の)農家で実習をし始めました。弘前市鬼沢の須藤様農家ではいろいろと試験場とは異なり，実際のりんご農家の生活状態がわかり，又栽培方法も多少違っていました。

日本に来てから今まで沢山研修もしましたし思い出も同時に沢山出来ました。でも一番大事なのは人との出会いだと思います。

ブラジルへ帰ってからは日本で身につけたりんご栽培技術をフルに活用してがんばりたいと思います。最後になりましたがこの機会を与えて下さった国際協力事業団，お世話になった試験場，県庁の皆様に感謝致します。



菅野孝　マウロ

1. 研修機関　(1) 前期　千葉県旭市石毛農園
　　　　　　(2) 後期　千葉県柏市深野ファッション・トマトハウス
2. 研修期間　1986年4月～1987年9月
3. 研修職種　施設野菜(トマト栽培)

4. 当初の研修計画

日本の農業，又農業以外，いろいろな事を学ぶため研修生として日本に来ました。

5. 研修概要

私は国際農友会から来ましたので農家で実習を行う事になりました。

昭和61年5月～62年3月の間を千葉県旭市石毛農園でミニトマト栽培の勉強をしました。ここでは農業経営者の考え方，内容が勉強になりました。そして最初の土作りから最後の販売方法を通して実際に日本の農業を見ました。

昭和62年4月～9月は，千葉県柏市で深野ファッション・トマトハウスで実習をしました。ハウスはアクリル板を使って太陽光を強くしておいしいトマトを作っていました。また無農薬有機栽培のためコンピュータで管理をする事を覚えました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修計画は日本の農業をはば広く勉強したいと思っていました。国際農友会に1年半千葉県だけにかぎられていたのが一つの問題で，トマトだけの勉強になりました。

7. 合同研修会について

6カ月に1回合同研修会は1つの楽しみでした。久しぶりにみんなと会えて研修先の事，事情や意見を話し合ってストレスをかいしょうするのによかったです。

8. 本邦での生活状況

最初の1カ月間，横浜の移住センターでは楽しくみんなと生活をしていましたが，研修先に行くと少し苦ろうをしました。農家実習なので家族の一人として一緒に生活を送りました。いろいろありましたが，おたがいに気をつかって社会勉強にもなり，よかったです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修生としてはできるだけ日本語を多く勉強して来て，専門語もあるていど覚えて来たら良いと思います。又来る前に日本のいろんな情報をあつめることが出きたらよいと思います。

10. 所感

この1年半の研修はとてもよかったです。農業の勉強はあるていどですが，南米の人々としり合って友達になれて楽しく研修を無事に終えました。また日本で旅もかなりできて北から南をみられました。国際協力事業団の皆様どうもありがとうございました。

佐々木　敏　雄

1. 研修機関　(1) 前期　千葉県長生郡白子町　鵜沢一正様方
　　　　　　(2) 後期　千葉県印旛郡八街町　麻野和男様方
2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月
3. 研修職種　露地野菜（西瓜ー牛蒡ーじゃが芋ー落花生ー人参ー玉葱と水田）と施設園芸（トマト栽培）

4. 当初の研修計画

施設園芸

5. 研修概要

昭和61年5月から昭和62年3月まで千葉県長生郡白子町で主に施設でトマト栽培の苗づくり，土づくり，栽培の管理の勉強をしました。その他，水田，落花生と玉葱の方はひまな時に仕事を手伝いました。

昭和62年4月から昭和62年9月は千葉県印旛郡八街町で露地栽培（西瓜ー牛蒡ーじゃが芋ー人参ー落花生）の実習でした。そこでは西瓜のトンネル栽培で，苗づくり，土づくり，トンネル作り，定植，整枝作業，交配，灌水，消毒，収穫，選別，箱づめと輸送までの手伝いをしました。

落花生と牛蒡は種まき，消毒，灌水，草取りをしました。じゃが芋は，消毒，草取り，収穫，箱づめ，輸送の手伝いをしました。最後には人参の土づくり，種まき，灌水，間引きまでの実習をしました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私が計画していたことは全く違って，残念ながらこの1年半に望んでいた研修はできずに終わってしまいました。研修の内容については労働より，もっと技術の勉強ができると思っていました。

7. 合同研修会について

6ケ月ぶりに同じ16回生のみなさまと会い，各研修生のことについていろいろと話し合い，とても大切な事だったと思います。その時楽しく時間を過ごすことができました。本当に最高でした。

今年，17回生が合同研修に参加できなかったのは残念だったと思います。それで，他の研修生のため合同研修会をつづけてほしいとおねがい申し上げます。

8. 本邦での生活状況

私の場合は国際農友会から家族と一緒に生活することに決められていました。その中で農家が作業におわれていたので，仕事が多くて，自分で勉強する時間も非常に限られてしまい，その他にまた24時間一緒でしたので，毎日うまくいくために大分気もつかいました。それなりにあわせるのに大変でしたが経験としてとてもよかったと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

少しでも多く日本語を勉強してきたほうが良いと思います。日本とブラジルの国際農友会の中でもう少し情報のやりとりや実習の受け入れ先の具体的な連絡が得られていれば，もっと詳しい計画を立てることができたと思います。

10. 所感

1年半の間に実習して来た中で勉強として悔いが残った。でも色々と嬉しかったこと，辛かったことがたくさんありました。それが一つ一つ重なって支えになり，成長させてくれると思います。

帰国後は日本で学んだ事はできるだけ生かして，一人でも多くに伝え頑張って役立ちたいと思います。最後になりましたが，国際協力事業団のみなさま，この機会を与えて下さいまして本当に心から感謝しています。どうもありがとうございました。

角本雅樹アルベルト

1. 研修機関　(1) 前期　長野県松本市大字島立　田中秀長様方
　　　　　　(2) 後期　長野県飯田市伊豆木　鎮西徹様方
2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月
3. 研修職種　施設園芸(ビニール・ハウス栽培)

4. 当初の研修計画

農業実習ではなく，日本の色々な事を学ぶため研修生として来ました。

5. 研修概要

私は国際農友会から来ましたので農家で実習を行う事になりました。

長野県松本市では，ビニール・ハウスでトマト，メロン，キュウリの栽培を実習しながら，そのほかハウスの作り方も学ぶ事が出来ました。

松本市の農家にやく11カ月いて，ひとつのサイクルを見て，昭和62年の4月から飯田市の農家ではシクラメンの栽培を学びました。その農家では，シクラメンを専門にやり，年にやく7万鉢，8人の人を使う事がひつようで，その計画を立てる事を学びました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修計画は日本の農業専門ではなく，日本の文化，日本語をも目ざしていて，そしてこの1年半の間に色々な事が出来ていいけいけんになりました。

7. 合同研修会について

やっぱり，この1年半の間，合同研修会が一番の楽しみでした。6カ月ぶりにみんなと会えて色々な話がゆっくり出来てとてもよかったです。ただ，今回17回生と会える事が出来なくてざんねんだと思いました。

8. 本邦での生活状況

日本へ来て1カ月間横浜の移住センターで楽しくみんなと生活をしてたが，研修先へ行くと少し苦ろうしました。

農家実習なので家族のしゅうかんになれるまでたいへんでした。でも，おたがいに気をつかいながらとてもいい勉強になりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修生としては出来るだけ日本語を多く勉強して，専門語もあるていど覚えて来たら良いと思います。又来る前に日本のいろんな情報をあつめることが出来たらよいと思います。

10. 所感

私にはこの1年半の研修はまんぞくいくものでした。農業については少ないと思いましたけど，南

米の人々としり合って友達になれて，研修を楽しくなかよくやれる事が一番うれしい事でした。

また研修先については，農家では私をもう一人の家族としてもらって，おかげさまでとてもいい研修が出来たと言えます。研修先の皆様方，国際協力事業団の方，このすばらしい1年半を本当にありがとうございました。

平田芙美子イザベル

1. 研修機関　(1) 前期　静岡県掛川市上内田　平野正俊様方
　　　　　　(2) 後期　〃　湖西市入出　松井義高様方
2. 研修期間　1986年4月～1987年9月
3. 研修職種　施設園芸（キウイ・フルーツ，お茶，ミカン，きく）

4. 当初の研修計画

私が住んでいる所はイタリアぶどうの生産地です。日本へはブラジルでまだ試験的なキウイ・フルーツ，そしてこれからの見込みのあるなしを勉強しにきました。農業だけじゃなくて生活，社会など少しでも理解出来ればいいと思っていました。

5. 研修概要

キウイ・フルーツのサイクルとしては5月の初旬は摘蕾を始め，下旬には人工じゅふん，夏になると薬剤散布，枝かんり（2カ月ぐらいかけて覚えた仕事），袋掛，秋は収穫と土のかんりに入り，冬にはせん定（キウイ・フルーツに対して一番大切な仕事）を行いますが，それらを研修しました。

4月からきく栽培の勉強に入りました。ハウスの中で働くのも初めてでした。果樹栽培の仕事より楽ですがハウスの中ってなんて暑いんでしょう。でも決められてる面積の中で働くのもおもしろい。そして私が最初から育てたきくの出荷が出来た時はなんとも言えない気持ちでした。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は日本へ来る前色々な話を聞きました。農家へ入り，自分がやった事のない仕事ばかりでしたので大変でした。この研修をあまく見ていたようです。でも今考えると本当によかったと思います。

7. 合同研修会について

合同研修会は私たち研修生にはとても必要な事だと思います。最初の1カ月，センターでの講習を受けながら友だちが出来，先生方の色々なお話を聞くのもいいと思います。それから1年半の中で何度かあつまって，さわいで話し合いが出来る事はとても心強いです。

8. 本邦での生活状況

研修が順調に進んでいると生活はたしかにたのしい。でもうまく行かない場合は泣きたくなる時が

あります。私はしらない人の家へ入って暮すのも初めてだし，考え方など合わない時がけっこうありました。でも研修が進んで行くなりに，自分がどこでどうやって相手に合わせて行けばいいか少しずつ分かって来るんです。もう一つはやっぱり技術的な言葉や機械のつかい方になれるまでは大変でした。休みの日には出掛けたり，ほかの農家の畑を見物に回った事もあります。そして週に1回，柔道の練習をしとてもよい思い出になりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

出来たら研修生たち全員に1カ月の日本語の講習を受けさせていただいたらよいと思います。1年半の期間，日本で自分一人で生活をする事はとてもむずかしいと思います。JICAがこんなにいい制度を私たちに与えてくれるからぜひ皆様もくいのないようにがんばってもらいたいと思っています。

10. 所感

昭和61年4月，私の夢が現実となり，国際協力事業団移住者子弟研修生として1年半日本で生活する事になりました。1カ月センターで合同生活をして，たくさんの友だちが出来とても楽しかったです。

今研修を振り返って見れば，悔しい，楽しいことがあり，さまざまな気持をとおしてきました。私の近くに姉がいたから色々と相談相手になってくれました。とても心強かったです。

皆は国に帰り，この日本での生活をけっして忘れる事は出来ないでしょう。私は日本で出来た友だちにはさよならなんて言えません。いつか，どこかでみんなと会える日が来ると信じています。

最後になりましたが，事業団や農家の皆様にたいへんお世話になり，本当にありがとうございました。

横木　登志枝

1. 研修機関　(1) 前期　岩谷学園横浜簿記専門学校
　　　　　　(2) 後期　監査法人横浜関内監査事務所
2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月
3. 研修職種　経理（簿記・会計）

4. 当初の研修計画

経済的な活動を記録し，それらの収支を計算する簿記を実務的に修得する事。又，時間が許されるなら，日本の茶道，お花，書道などを学ぶ事。

5. 研修概要

4月より岩谷学園横浜簿記専門学校へ電車で通学する事になりました。

私がはいったのは，1年制コースの簿記会計本科です。

1学期　初等商業簿記，中級商業簿記，ビジネス実務，計算実務

2学期　中級商業簿記，工業簿記，経営学

3学期　会計学，会計実務

4月に新入生の親睦を目的として新入生研修が行なわれました。そこではオリエンテーリング，創作問題による自己表現などをしました。

冬には，生まれて初めてのスキーなどを楽しむ事が出来ました。

学校では，友だちの協力，そして先生方が授業をわかりやすく説明して下さったおかげで色々な検定試験に合格する事が出来ました。

後期研修では監査法人横浜関内監査事務所で学校で学んだ事を実務の上で研修しました。

－伝票起票

－仕訳帳

－得意先元帳，仕入帳の記帳

－銀行通帳より振替伝票を起票

－損益計算書，貸借対照表作成

－EPSON KX10と20に仕訳をINPUTする

－IBM5550の基本操作

－同MULTIPLANでTIME REPORT集計

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

最初に簿記専門学校で基本を学び，それを監査事務所で実務に生かす事が出来たので希望していた事を経験する事が出来ました。

学校では，2年生のクラスへ行って会計学そしてコンピュータなども学ぶ事が出来，思っていたより多くの知識，技能を修得する事が出来たと思います。

移住センターでは，日本の文化である書道，茶道，花道を習う事が出来ました。

7. 合同研修会について

色々な国の二世の人達と意見をかわし合いそれぞれの国の社会性を勉強する事が出来，又，友達がたくさん出来ました。出来ればこういう機会を又，設けていただけたらと思います。

8. 本邦での生活状況

私は他の9名の研修生とこの1年半移住センターでお世話になりました。日常会話にはあまり不自由しませんでしたが，最初は日本の習慣にとまどった事が有りました。

センターでは，海外開発青年，移住者，そして日本語教師たちと共同生活だったのでたくさんの友だちを得る事が出来ました。

日本は季節感がはっきりしている国です。研修が休みの日は友だちと色々な所へ旅行に行き，楽しい思い出をたくさん作る事が出来ました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修生は日本で何を学びたいかをはっきりさせて来る事が大切だと思います。又，自分の研修したい事に関する専門用語を事前に勉強しておくと便利です。

10. 所感

文化がふかく技術の進んだ日本で研修が出来た事をうれしく思っています。日本では，コンピュータがあらゆる部門で普及しています。私が実習していた関内監査事務所でもほとんどがコンピュータ，ワープロなどを使って作業しています。日本でただ単に技能，知識を修得しただけではなく様々な人と出会い，色々な面でお世話になった事は本当にプラスになりました。帰国後，日系の人達に日本で学んだ事を出来るだけ多くつたえたいと思います。

この１年半日本で私をあたたかく迎えて下さった国際協力事業団の職員をはじめ，横浜簿記専門学校の先生方，横浜関内監査事務所のみなさま，そして友だちに心よりお礼申し上げます。

檜　垣　憲　介

1. 研修機関　(1) 前期　兵庫県農業総合センター（農業試験場化学部）

　　　　　　(2) 後期　近畿大学農学部農学科遺伝育種研修室

2. 研修期間　１９８６年４月～１９８７年９月

3. 研修職種　農芸化学（遺伝育種学）

4. 当初の研修計画

前期は，農産物を安定的に供給し生産性を向上させるために欠かすことの出来ない要素である農薬及び化学肥料の製造行程の実地研修。

後期は，農業試験場において農産物の生産性向上（多収穫など）を図るために必要とされる上記要素の適切な使用法，化学肥料と土壌との関係，農薬と病害虫や雑草との関係を把握するために必要とされる知識や分析，測定技術の研修。

5. 研修概要

A) 残留農薬：農業にとって，病害虫や雑草の防除に欠かすことの出来ない要素の中で農薬は大変大きな位置を占めています。良質な農産物を安定的に供給し，農作業の省力化を図り生産性を向上させるために，農薬が果たしてきた役割は極めて大きなものがあります。

しかしながら，農薬は使用法を誤れば，作業者自身への毒性のほか農作物への薬害，人畜や魚介類への危害，更に農産物や土壌への残留による地域環境への影響など，様々な問題を引き起こす可能性があるため，農薬の使用法に当たっては，連用や多投与を避けた適切な使用に努めることがたいせつであります。

1）現場においての実験

ー農産物における農薬の散布法

ー農協などの農業生産現場において，農薬安全使用に関する研究に参加

ー農家が農薬を散布するに当たり身体付着の程度を把握する実験を実施

ー試料とされる農作物の採取法

2）実験室においての実施項目

ー試験の計画　ー　試料の調製　ー　各農薬の分析及び分解性（半減期）の求めかた

B）作物栄養：ほ場や実験室において，作物の生育に必要とされる土壌養分の変化及び化学肥料の成分分析技術の習得。

1）ほ場においての実験

ー稲作物の植え付け，生育期による管理法，収穫

ー野菜栽培における耕種法と，資材の投入について

2）実験室においての土壌及び堆肥に含まれている有機酸並びに無機イオンの測定

ー蓚酸　ー　酢酸　ー　乳酸　ー　リンゴ酸　ー　クエン酸　ー　その他

ー土壌中の水溶性陰イオン

PO_4^{-3} ー Cl^- ー NO_2^- ー NO_3^- ー SO_4^{-2} ー Br^- ー F^- その他

ー土壌中の塩基含量

CaO ー MgO ー KO

ーConwayの微量拡散法による分析

硝酸態窒素　ー　アンモニア態窒素

ー土壌微生物

糸状菌の計測

ー肥料に関する分析技術

全窒素　ー　燐酸　ー　加里

C）土壌保全：土壌調査および土壌養分の測定についての研修

1）現地調査

ー土壌断面調査　ー　土質及び土色の判定

ー飽和透水計数（シリンダー法）

2) 実験室においての土壌養分の分析

ー粒径組成(ピペット法) ー pH(H_2O) ー pH(KC_l)

ー電導度(E.C) ー 腐植 ー 全窒素 ー 置換性石灰及び苦土

ー置換性加里 ー 燐酸吸収計数 ー 有効態燐酸 ー 塩基置換容量

D) 水質汚濁:農業用水の水質調査及び水質分析

1) 現場での調査項目

ー気温,水温,外観,臭気,濁り,流量,プランクトン,時刻など

ー指示薬によるpHの測定 ー 溶存酸素(DO)測定用検水の採取

ー水の採取法

2) 実験室においての化学分析

ーpHの測定 ー 電気電導度(EC)の測定 ー 溶存酸素(DO)の測定 ー 分析に使用される試薬の調製 ー 化学的酸素消費量(COD) ー 生物化学的酸素消費量(BOD) ー 全窒素の測定 ー 燐酸の測定

3) 下水汚泥連用土壌の化学分析

ーpH ー EC ー 置換性石灰及び苦土 ー 有効態燐酸

ー重金属(Cd, Cu, Zn, Pb)

E) 流通加工:農産物の品質向上のための果実,野菜などに含有されている重要な成分の分析技術及び消費拡大のための流通に関する知識の習得

1) 園芸食品の流通及び加工技術一般

2) トマトに含有されている成分の分析手法,品質評価及びトマトの物理的測定法

ー乾物,灰分 ー 糖(還元糖) ー ビタミンC ー 果皮の硬さ

3) ほうれんそうの鮮度保持に必要とされる成分の分析手法及び品質比較測定法

ーイオンクロマトによる硝酸,蓚酸等の測定及びビタミンCの測定

4) 冷却吸水処理法によるほうれんそうの新しい鮮度保持

5) その他試料や試薬の調製について

F) 農業工学プロジェクト

土壌調査および土壌物理性の測定

1) 現地土壌調査(有効土層の厚さ,作土の深さ,ち密度など)及び物理性測定用試料の採取

2) 現場において採取された試料を密封して実験室に持ち帰り以下のような測定を行いました。

ー実容積の測定 ー 三相分布 ー 保水性(pF) ー 液性限界

ー塑性限界 ー 飽和透水計数(定水位法,変水位法) ー 収縮率

ー圧砕強度

G) 異なる濃度の液体培地におけるエノキタケ菌糸体及びきのこの生長に伴う培地中性分（C，N）及びpHの変化を動的に定量分析すること。

H) イチゴにおけるウイルスフリー苗の生育：イチゴがウイルス病にかかると，ウイルスはその植物の全身に蔓延するが，局部的にみればウイルスの存在しない組織や細胞もある。このような組織として，茎の成長点近傍の分裂組織がある。この成長点近傍の組織を切り取って培養し，個体を再生すればウイルスフリーのいちごを得ることが出来るので本実験を実施しました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画と比較しますと農業試験場においての研修内容は希望以上に実施することが出来ました。

農薬や化学肥料の製造行程の実地研修は，製造業者によるノウハウのため実施することはできませんでした。けれども現在ブームである遺伝育種学（バイオテクノロジー）による品質改良の知識を身につけることが出来ました。

7. 合同研修会について

到着直後，研修期間内2回（先輩に当たる研修生の見送り，後輩に当たる研修生の出迎え）そして最終帰国日前など重要な時期に行われる合同研修会は，私たち研修生にとって有意義であり，又，必要と思います。

到着直後環境や習慣の全く異なった国において研修生活を送るに当り，不安感や研修期間内に発生する多種の問題点や体験を語り合い，お互いに励ます唯一な一時でありました。

尚，この様な機会及び研修旅行を予算の上実行できなかったのは非常に残念であると思います。又，この様な機会をぜひとも今後の研修生に与えられるよう心から願います。

8. 本邦での生活状況

研修生活を送るにあたりアパートに入居し研修先へ通学することになりました。入居の際，生活を送るに当たり最低必要とされる家具，家庭用品，食器類の購入やアパートの礼金や保証金等に必要とされる費用が高かったため金銭的に困りました。

通学に当たっては，前期研修先へは往復2時間でしたけれど，後期研修先へは往復4時間かかり，研修生からみれば無駄な時間だと感じました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

—今後子弟研修制度により来日される研修生は主に2世，3世……等の世代になり，日本語の不十分な研修生が徐々に増加していくと思いますので，移住センターにおいて日本語の講習期間もその都度延長して頂きたいと思います。この日本語講習により言葉の障害が減少し，スムーズに研修を受けることが可能になると思います。

—アパート生活を送らなければならない研修生に対しては，入居の際むだな費用（家庭用品，家具類，

食器類，礼金，保証金など）がかかりますので，何らかの援助が必要と思います。又，出来れば住居に関しては，当初の自己負担による費用からみれば寮生活が良いと思いますので，是非とも国際協力事業団により確保していただきたいと思います。

10. 所感

第16回移住者子弟技術研修生として来日し，早くも1年半の研修期間を終えることになりました。この期間中パラグアイではとても出来ない様々な体験を経験することが出来ました。又，この機会により技術に関して最も優れた国において研修できたのは何よりと思っています。

尚，この研修により習得できた技術，知識，最新型の分析器具の操作等をどの様に役立たせるか今は不安です。しかし，何らかの方法でいかし，パラグアイの農業発展に役立てるのが私の務めであり，皆様のご期待に応えることになるよう努力したいと思います。

最後に，国際協力事業団移住者子弟技術研修生担当者の皆様，兵庫県農業総合センター並びに，近畿大学農学部農学科遺伝育種学研究室の皆様大変忙しい毎日でありながらも，快く御協力や技術指導を頂き誠に有難うございました。

金沢みえエレナ

1. 研修機関　(1) 前期　神奈川県立母子保健センター
　(2) 後期　神奈川県立母子保健センター，汐田総合病院
2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月
3. 研修職種　看護婦（助産婦）
4. 当修の研修計画

パラグアイはまだまだ乳児の死亡率が高いため，産科の方を学びたく思いました。また，産後の乳房ケアもできていないため，ぜひともマッサージをならいたく思いました。

5. 研修概要

1. 海外移住センター

日本語講習，社会，音楽，地理，体育

2. 神奈川県立母子保健センター

外来診察室，保健指導室，分娩室，新生児室，産婦室，妊婦継続，初期から分娩，育児，家庭訪問，1カ月から6カ月健診まで

3. その他

(1) 神奈川県立こども医療センター（未熟児室）
(2) のぞみ助産所
(3) 北里大学
(4) 神奈川県立保健所
(5) 母乳相談所
(6) 沢内村病院見学
(7) 桶谷式研修所
(8) さくらんぼ保育園
(9) 汐田総合病院
(10) 有馬助産所見学

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

同じ病院だけでなく，他へ研修に行くことによって産科，そして助産婦のかかわりをはば広く見ることができました。

又，帰国後は産科だけでなく，総合的に仕事をしなければなりませんので，最後は産科以外もでき，よかったです。

7. 合同研修会について

私達にとって合同研修が一番の楽しみであり，はげみでありました。あと少しで皆に会えると思うと，かなしみや苦しみはとんでしまったものです。仲間同士だと，ふだんだれにもいえなかったことなど，なやみを話せるし，ストレス解消にもなりました。又，センパイ達との話し合いをやることによって，勉強になり，はげみにもなりました。今年からは合同研修がなくなってしまったということは，ほんとうに残念に思います。ぜひとも続けてほしいです。

8. 本邦での生活状況

18カ月の研修期間，移住センターで生活しました。このなかで，いろんな方達と出会うことができ社会勉強にもなりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

1. 日本へ来る前に，自分が何を勉強したいのか，目的が日本へつたわっているのかはっきりとしていたほうが良いと思う。
2. 今年から合同研修がなくなりましたが，又続けた方が研修が深まると思う。
3. 今後も，つねに研修生との話し合いの場をもうけ，研修をしやすいようにもっていってほしいと思う。

10. 所感

今回，このような研修の場を与えてくださった国際協力事業団の皆様に心から感謝しております。今後，学んだ事をいかしていきたいです。ありがとうございました。

*　　　*　　　*　　　*　　　*

当初の研修計画としては，パラグアイでまだ産後の乳房ケアがされておらず，ぜひ桶谷先生のところで研修を受けたく思いました。そのために産科ということです。

実際に，こうして研修を終え，自分の思っていた以上にできたことを深く感謝しております。これ

も，私を担当してくださった総婦長さん，婦長さん，主任さんのおかげです。というのは，主任さんは視野の広い方で，母子センターでやられていないこと，また，私に必要であると思ったこと，希望することなどいろんなところを紹介してくださいました。そして，妊婦を初期から出産，育児，6カ月検診と見ていくなかで，他で学んだことをいかすことができ，勉強になりました。また，このようにスムーズに研修ができたのは，私を病院のメンバーに入れず，したい事をさせていただいたおかげです。また，婦長さんや病院のスタッフの方々の協力，そしてはげましの言葉です。遠い国をはなれ，いろんな面でちがったところが沢山ありましたが，皆様方の暖かい受け入れで，問題なくのりこえることができました。

研修期間中，妊婦さんの受け持ちをさせていただき，大切なそしてきちょうな経験をすることによって，私の助産婦というやくわりの大きさを知ることができました。

病院の中でも助産婦さん，そして看護婦さん達が，他の病院で必要に応じた研修が受けられ，受け持ちができればと思いました。

桶谷先生の所へは1週間行ってまいりましたが，いかに乳房について知らないかということがわかり，また，手技のむずかしさや，乳児へのオッパイの必要性が良くわかりました。パラグアイへ帰国後，仲間にも知ってもらいたいと思っています。食生活もちがいますので，いろいろと研究をしていきたいです。

助産所にも行って来ましたが，まったく自然に待ち，妊婦をリラックスさせ，お互いにコミュニケーションがとれており，生れて来る赤ちゃんのほとんどはアプガー数が10点です。いかにリラックスをさせ，呼吸をうまくさせることが大事かということが良くわかりました。

帰国後，こういった事もふくめ乳児死亡の多いところですので，呼吸法や妊婦さんへの指導のあり方を考え，皆が良いお産ができ，そして乳児の死亡率が少しでも下がってくれればと思っています。

まだまだ未熟な私ですので今後もよろしくお願い申し上げます。これからもパラグアイとの交流ができればと思って居ります。

母子センターの皆様初め，他の病院の方々へ感謝の気持でいっぱいです。皆様方のご健康をお祈りいたしております。ありがとうございました。

寺島ブラス健

1. 研修機関　(1) 前期 (有)大十園
　　　　　　(2) 後期 (株)ミヨシ
2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月
3. 研修職種　花卉（組織培養）

4. 当初の研修計画

アルゼンチンではカーネーションやイチゴの組織培養をやっており，全世界でもトップクラスの培養技術を持つ日本で研修を受けたかったところ，JICA の移住者子弟技術研修生のせいどでこられるようになりました。

5. 研修概要

昭和61年4月8日に日本へ来て，それから日本語などを1ケ月間海外移住センターで勉強しました。海外移住センターにいる時は桜の花見や親せきのあいさつに行きました。

5月8日から愛知県の豊橋市にある(有)大十園で研修を受けました。大十園では観葉植物の最新技術を学べるようになりました。この会社では組織培養の方法で大量に繁殖していました。その他に土をつかわず栽培をするハイドロカルチャという新しい技術も学べました。

他には培養で作られた苗を沖縄へ送り，半製品として豊橋に戻すリレー栽培も行われていました。このリレー栽培の見学にも会社の出張で行けました。

昭和62年4月9日からは山梨県の(株)ミヨシにかわり，この会社では宿根草や1年草と球根の培養や繁殖方法を学ぶことが出きました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

計画の中では観葉植物の組織培養でしたが，この研修が1年間でできましたので，後期研修は宿根草，球根と1年草の研修に変えていただきました。1年半の研修は計画以外の事まででき勉強になりました。

7. 合同研修会について

合同研修会では研修の情報が入ったり，悩み事が解決する場合が有ります。研修生同士が互いに知り合えた最適の場であったとも思います。今年は帰国する時に合同研修会がなかったのは非常に残念に思っています。

8. 本邦での生活状況

1年半の生活はアパートでしました。食事は作っていただき，特に不自由は有りませんでした。会社の皆さんは外国から見えたと言って，とてもよく色々な事を教えてくださいました。友人もでき日本へは何年かに一度は来たいと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来るには，日本語を理解する事が大切だと思います。研修先ではできるかぎり色々な人々と友達になって日本の生活も勉強すると良いと思います。

10. 所感

日本に1年半いて色々な人との付き合いが有り，良いところも悪いところもありました。もう日本という国に関してはくいがないようになったと思います。この国で学べた良い事だけは帰国してから実行できたらいいと思っています。

片渕譲二マリオ

1. 研修機関　(1) 前期　佐賀経済連白石農業機械整備センター（61年5月～7月）

(2) 後期　佐賀技能開発センター（61年7月～62年9月）

2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月

3. 研修職種　農業機械整備（自動車整備）

4. 当初の研修計画

建設機械と農業機械の整備について学ぶことでした。

5. 研修概要

61年の5月から白石農業機械整備センターで2ヶ月半の研修を受けました。農機具の中で主にトラクターについて，他にコンバインや田植機などの整備をしました。

トラクターのエンジン，トランスミッションのオーバーホールやコンバインの動力伝達軸の軸受け（ベアリング）の交換，他に点検などもしました。だが僕にはこのような機械については知識あるいは基本や作動順などほとんど分っていませんでした。ですからこれまで学んできた整備という整備は，ほとんどが見様見真似で覚えたものです。

7月23日からは研修場所が変わり，今度は佐賀技能開発センターで1年間自動車の整備について学ぶことになりました。自動車コースの中では，車体整備，自動車の構造，内燃機関，電気装置それぞれの科目は学科と実技で受けました。実技の方ではほとんどが分解組立て，ほかには一般のお客さんの車の車検などもしました。

センターで自動車コースを1年間又は1,600時間を終了すると自動的に三級整備士の試験を受けるための受験資格免状がとれました。8月5日に三級整備士の試験に挑戦したところ1ヶ月後の発表に

より合格と分りとてもうれしかったです。又，JIS規格によるアーク溶接の実技と学科試験にも挑戦し合格することができました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修計画としては農業機械と建設機械の整備でしたが，やっぱり何でも基本という物があって，基本ができていないと整備も何もできませんでした。それで整備の基本を作るために技能開発センターに入り自動車の整備について学びました。

その他，アーク溶接，ガス溶接それぞれの免許を取ることができました。一番良かったと思うのは日本にこられてこれだけの事を覚えられたことで，僕はまでぞくしています。

7. 合同研修会について

この1年6ケ月の研修の中で6ケ月毎に行なわれた合同研修会は，研修生一人一人にとって大切な行事でした。たしかに研修先でみんな何かいやな事あるいはいい事が有ったと思います。それを打ち明けられるのがこの時でした。

又，合同研修は研修に成果を上げる一つのきっかけだと思います。毎年続けてほしいと思ったが，今年からなくなるとはほんとうに残念だと思います。

8. 本邦での生活状況

初めの2ケ月はお父さんの実家でおじいさんそれに叔父さんの家族といっしょに生活し，研修先へかよいました。家族は明るくむかえてくれたし，大変お世話になりました。その後，佐賀技能開発センターの寮に入り，寮生ともすぐ友達になれて色々とお世話になりました。

センターの先生から授業の時はていねいに教えてもらい楽しい研修又は勉強をすることができました。ほんとうに楽しい日本での生活でした。僕にとっては一生の思い出にのこると思います。のこしたいです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来て初めにすることは友達を作ることが一番じゃないかと思いました。すると日本っていう国はどんな国か分かるし日本の生活にとけこみやすいです。

色々な勉強にもなります。研修に来る前には研修内容目的をはっきりきめていたほうがいい。すると研修成果を上げられると思います。これからもどんどん研修生を受け入れてほしい，もっと国際交流があってほしい。日本から外国へ外国から日本へと。

10. 所感

僕は小さいころから機械をいじるのが大好きでした。大きくなったら整備工場なんか持ちたいという夢がありました。それで，いまだに機械は好きです。僕は夢がかなえられるチャンスが来た，それで最後まで頑張って来たかいがあったと思っています。これからも自分又，国のためにも頑張ります。

このチャンスを与えてくれた国際協力事業団の皆様，佐賀経済連機械整備センターそれに佐賀技能

開発センターの皆様ほんとうにありがとうございました。

謝 花 里 江

1. 研修機関 (1) 前期 大育ビジネス専門学校

(2) 後期 〃

2. 研修期間 昭和61年4月～昭和62年9月

3. 研修職種 経理(OAビジネス科)

4. 当初の研修計画

日本語の読み書きと正しい会話が出来るように少しでも多くマスターすること。

両親の故郷で専門的な技術を身につけて経理を学ぶ，この目で見て日本の文化，社会を知ることが目的でした。

5. 研修概要

5月12日に大育ビジネス専門学校に入学しました。学校ではOAビジネス科として研修，勉強させていただきました。学校でわたされた教科書を見るとみんな難しい漢字ばかりで最初は意味も理解できず毎日の勉強に必死でした。

1ケ月おそくみんなより入学したので簿記の内容に関してはもうすでに進んでいたので授業について行くのに大変でした。その為放課後おそくまで残ってわからない所は先生や友達に教えてもらい，補習して頑張りました。

専門学校では18ケ月を通して次のような科目について学びました。

○簿記の要素

資産，負債，資本，貸借対照表，損益計算書，収益と費用，精算表の作成，商品売買の記帳，手形取引の記帳，決算，仕訳伝票の記入と転記，入金伝票，出金伝票，振替伝票

○工業簿記

原価計算，材料費の計算，労働費の計算，経費の計算，原価の部門別計算，原価の製品別計算，個別原価計算

○所得税法

利子所得，配当所得，不動産所得，事業所得，給与所得，退職所得，山林所得，譲渡所得

○法人税

○秘書概説

秘書の意義と位置づけ，秘書の職能，秘書と人間関係

○情報処理

○COBOL，流図，プログラム，ハードウェアとソフトウェア

○文書事務，一般経済学，ワープロ，ソロバン，ペン習字，生花，英語，漢字，珠算

以上の事を沖縄大育ビジネス専門学校で学びました。そして1ケ月半ぐらいは実習として沖縄花王販売株式会社でいろいろとスケジュールをくんで下さり，事務課の住うでは伝票のチェックをしたり，電算室では伝発までしました。

短い間であったが，会社の住うではみんなとても親切におしえてくれたので毎日の仕事が楽しく感じました。そこでもたくさんお友達になり，お別れ会などもしてくれて本当に感謝の気持でいっぱいです。

成果

全国経理学校協会工業簿記検定	1級
全国経理学校協会所得税検定	3級
全国経理学校協会情報処理検定	3級
全国経理学校協会税務会計能力検定	3級
全国便箋教育連盟	3級
漢字検定	2級
日本タイピスト学校連盟	5級
英語検定	4級

以上取得することができました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私にとってこの1年半は自分の希望以上の成果を上げることができて満足しています。専門学校へ通って経理について講義をうけました。しかし，習得した知識について実習することができず少し残念に思う。知識があっても帰国後実施できるか少し不安ですが，ボリビアの為にできるだけ頑張りたいと思う次第です。

7. 合同研修会について

来日して知り合った同期の研修生達ですけどすっかり友達になりました。この合同研修会では色々な問題点や悩み事，研修の意見交換などスペイン語やポルトガル語，日本語を交ぜ合わせながら仲間同志はげましあい共に活動，そして4月の箱根旅行はすごく楽しかったです。

8. 本邦での生活状況

日本へ着いて1ケ月は横浜の移住センターで一緒に過ごしました。そこでは本やビデオを見ながら日本の文化，歴史，日本語を勉強しました。

5月には研修さきの沖縄へ行って生活しました。日本はいろんな面で物が豊富でなんでもあり，自

動化されて，何一つ不自由なく生活ができとてもすばらしい国だと思います。

両親の故郷で親戚や知人に会えることができ，又，沢山の人情深い友達ができてうれしく思います。ときどき国際協力事業団沖縄支部による県内見学やパーティーなどにも参加でき，又県費留学生の人達とも楽しい一時を過ごすことができてここでの生活は最高でした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

出来るだけ日本語，漢字を学んでいただくと良いと思います。少しでも多く自分の研修科目の情報を得て内容や専門用語を理解しておく必要があると思います。

10. 所感

日本へ来ることができたのはなによりうれしいです。幼い頃から両親の生れ育った日本を見たいと思っていた夢がかなって喜んでいます。日本で無事研修を終えることが出来たのも多くの人たちのご支援，ご協力によるものです。日本に来て以前より少し成長したと思います。

帰国後は日本で学んだ事をじゅうぶんにいかしたいと思っています。このようなすばらしいチャンスをくださいました国際協力事業団の方々，又，沖縄支部，先生方，皆様には長い間大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。

野　田　悦　子

1. 研修機関　(1) 前期　神奈川県立藤沢高等職業訓練校
　　　　　　(2) 後期　東芝エンジニアリング株式会社
2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月
3. 研修職種　コンピュータ（ソフトウェア）

4. 当初の研修計画

高校時代からコンピュータの事を知り，コンピュータ技術が進歩している日本で技術を習得したいと思っていました。又，日本語の読み書き勉強と正しい会話，日本の文化，社会を知る事が私の第2，第3の目的でした。いろんな場でコンピュータがつかわれている所を見学したり，知識を広める事でした。

5. 研修概要

前期は神奈川県立藤沢高等職業訓練校で研修しました。

1. コンピュータの基礎
2. ソフトウェアの基礎知識
3. ハードウェアの基礎知識

4. 基礎数学

5. プログラム言語はCOBOL，FORTRAN

後期は東芝エンジニアリング株式会社で実習しました。ソフトウェア開発部で私に教えて下さる担当者2人にお世話になりました。

プログラム設計，プログラムのメンテナンス，プログラムのデバック，バッチプログラム，オンラインプログラム，サブプログラム，新規プログラム，ジョブ制御文の作成。プログラム言語はBASIC，機械はTOSHIBA PASOPIA 16 をつかいました。

海外移住センターでは寮生だけで書道，茶道，生け花の講習も受けました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画以上に様々な分野を幅広く学習する事が出来ました。当初はコンピュータの事について白紙の私でしたので，計画はコンピュータの事を知り，プログラマーの勉強をするとことでした。

1年半の研修を終えてみると，多くの進んだコンピュータ技術を修得でき，また，日本の社会についてもいろいろと学ぶ事が出来ました。

7. 合同研修会について

6ケ月ごとに行なわれる合同研修会については有意義な一時だと思います。それぞれ慣れない日本の生活状況，研修先での問題点や悩み事，研修の意見交換などをワイワイ話し合いながら，友達の仲を深めながら1年半の研修の励みにもなりました。今年の3月30日，31日の伊豆研修旅行では，16回生全員との良い思い出がたくさん出来ました。

8. 本邦での生活状況

来日した翌日から研修先である藤沢高等職業訓練校での研修が始まりました。最初の1ケ月間移住センターで日本語（国語，歴史）を学べなかったのが残念でした。

研修期間1年半は移住センターで過しました。その生活の中でいろんな国々の方々と友達になり，又，海発青年とも知りあう事が出来国際色豊かないろんな話し合いをもち，楽しく過しました。

最初困った事と言えばやはり言葉と生活習慣，考え方の違いがはげしい事でした。日本にいるかぎり合わせるべきだと思いました。研修先では漢字の読み書きが出来なかったことです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

今後の子弟研修生に対する提言及び要望事項は，ある程度日本語の読み書き，話し方，勉強をしておく必要があることです。たとえばどこかで何かをたずねる場合，又は研修先で研修内容の意味が聞きとれない時はたいへんこまります。

子弟研修生は日本に来る前に研修計画を具体的に立てる事，又，JICAの支部はそれぞれの研修生に研修先の情報をくわしく説明する事，子弟研修生は日本にいるかぎり日本の生活状況を理解出来る様努力して欲しいと思います。日本人の考え方，行動，性格はちがいます。南米的な考え方で行動す

る事は良くないと思います。たとえば礼儀作法など。

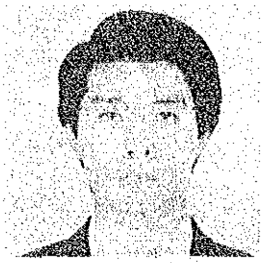
10. 所感

JICAのお蔭で日本に来る事が出来ていろいろとすばらしい経験をしました。良い研修が出来，又，日本の文化，正しい日本語をたくさんおぼえ知る事が出来，そしてたくさんのいろんな人達と友達になりました。帰国後，この1年半研修した事について何かに役立ち，日本の文化，歴史，見た事，聞いた事について少しでも話してあげたいと思っています。

1年半あっと言うまに過ぎました。去年の4月に来た当時は寒くて寒くてぶるぶるふるえました。さくらの花が満開でとてもきれいでした。日本の四季を味わう事が出来ました。

国際協力事業団，海外移住センターの職員，研修先でお世話になった皆様方に心から感謝申し上げます。この1年半本当に色々とありがとうございました。

常重エドワルド



1. 研修機関　(1) 前期　東京いすゞ自動車株式会社
   (2) 後期　神奈川三菱ふそう自動車販売㈱，チーゼル機器，平和商会㈱
2. 研修期間　1986年4月～1987年9月
3. 研修職種　自動車整備
4. 当修の研修計画

私の国では車の修理は大分おくれています。ヂーゼル車が多くなって，技術をもっている人があまりいないから，私は次の3つのPOINTを研修の目的としました。

A：自動車整備新技術（大，中型ヂーゼル）

B：インジェクション・ポンプ

C：農業機械

5. 研修概要

一　海外移住センター 日本語講習	約3週間
一　東京いすゞ自動車 中，大型ヂーゼル，車検整備部，ユニット部，一般整備部	約10ヶ月
一　神奈川三菱ふそう自動車 小，中型ヂーゼル，車検整備	約5ヶ月

— 三菱自動車，岡崎教育センター　　約2週間

　ターボ付エンジン，中，小型エンジン

— デーゼル機器，平和商会　　約10日間

　インジェクション・ポンプ（修理，調整，整備）

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画と実際の研修内容のちがいは，やはり日本人の働き方，いろいろな工具，機械の作動にあり，最初のころそれをすばらしいことと思いました。

仕事としては，自動車整備で修理が少なくほとんど部品交換でした。私はがっかりしました。しかし，いろんなことがありましてよい経験になりました。

7. 合同研修会について

合同研修会が3回ありまして，とてもよい事でした。私達はこの機会に先輩達からいろいろとアドバイスを聞いて，私達の問題点，生活状況などを話したりして後期研修のためとても役に立ちました。

8. 本邦での生活状況

海外移住センターで1年半生活をしましたが，皆と一緒に生活するのははじめてですから，いろんなことがありました。その中でよいこと，思い出がいっぱい残っています。いろんな国の研修生達としりあって，毎日大変楽しい生活が出来ました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

今後の子弟研修生の人数はふえると思っていますけど，日本へ来るチャンスが少ないから，できるだけいろんな事を学んでほしい。研修以外，できるだけ自分の国では学べない日本的なことを学んでもらえたらと願っています。そして帰国しても学んだことを実行し続けられたらとてもいいと思います。

10. 所感

日本に来てから1年半経ってしまいまして，この間に経験がふえてきまして，いろんな面でよい勉強になりました。これからペルーに帰って，自動車整備を現地の人と一緒にやりたいと思います。日本で学んだ技術をしっかりと応用したいという考えです。

JICAの皆様，この18ケ月間大変お世話になりまして，そして楽しい思い出をくださってありがとうございました。

鷲　見　隆　正

1. 研修機関　(1) 前期　神奈川県立川崎高等職業訓練校，株式会社東芝

   (2) 後期　株式会社東芝

2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月

3. 研修職種　弱電技術（家庭用機器修理技術）

4. 当初の研修計画

   1. ＡＶ機器（テレビ，ビデオ，音響）の基礎と修理技術の習得
   2. ＯＡ機器（パソコン，ワープロ）の使用方法と修理技術の習得
   3. 製造工場及び修理現場の見学
   4. 日本の文化，歴史，社会を知ること

5. 研修概要

前期研修：

1. 研修期間：61年4月～8月

   研 修 先：神奈川県立川崎高等職業訓練校

   研修内容：学科：Ⅰ）電気の基礎理論

   Ⅱ）電子の基礎理論

   実習：Ⅰ）電子回路の実験

   Ⅱ）デジタル回路の実験

   Ⅲ）プログラミング（BASIC　PC9801）

2. 研修期間：61年9月～62年3月

   研 修 先：株式会社東芝

   技術研修先：東芝首都圏サービス株式会社

   研修内容：持込み修理を担当し，一級修理をした取り扱い：CTV, VTR, AUDIO　etc.

   新入社員教育を一緒に受けた（首都圏，大津研修センター，中央SS）：

   ・ＣＴＶの基礎及び修理実習

   ・ＶＴＲの基礎及び修理実習（VHS，β）

   ・AUDIO基礎及び修理実習（CD，AMP　etc）

後期研修：

研修期間：62年4月～62年9月

研 修 先：株式会社東芝

技術研修先：東芝H.T.C.（ハイテクセンター）

研修内容：ハイレベルな技術を必要とするVTR, MOVIE, パソコンの持込み修理を担当した。

- ＶＴＲ修理実習
- ビデオカメラ（MOVIE）修理実習（βムービ, VHS, C−VHS）
- パソコンの基礎, プログラミング（MSX−BASIC, マシン語）
- パソコンの修理実習

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

1年半は自分が思った研修計画以上に研修ができました。初めは訓練校で勉強しましたが, 内容はウルグァイで勉強した事とあんまり変わりませんでした。けれどもこの6カ月はウルグァイでの勉強を復習する意味でもとても良かった。

9月から㈱東芝では, テレビ, ビデオの基礎から一級修理まで学び, 又, 日本のサービス会社のシステム運営方法などを知ることが出来た。

研修が終わってみると今では“自信”を持って修理することが出来る様になった。

7. 合同研修会について

合同研修会は, 6カ月ぶりに全員の研修生と会うので一番の楽しみでした。それぞれの研修や毎日の日本の生活の話を聞いたりして良いことでした。又それぞれの国の事をお互いに話合うこともできました。

合同研修会でこんなに友達ができると思っていなかったのです。本当に良いことでした。次の研修生達のためにもつづけて欲しいのです。

8. 本邦での生活状況

私は1年半の研修期間中, 横浜の海外移住センターで生活しました。初めての日本の生活になれるまではとっても苦労しました。よく日本語がわからなく, 漢字も読めず, けれどもだんだん日本人の友達ができて色々と相談し, 又センターの皆さんにも聞いたりして, なれることができました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

① 日本に来る前に必要な日本語を理解する事, 又少しでも専門用語も勉強をする事

② 研修を始める前に自分が勉強をしたい内容を研修先に知らせること, 又, 1年の計画を立てる事

③ 1カ月の日本語研修は今後の研修生にもつづける事, 又, なるべく全員が受けるととても良いと思います。

10. 所感

川崎の訓練校で基礎を学んでから㈱東芝での電気製品の持込み修理をして, 自分自身ある程度自信を持つことが出きた。

1年半で得た経験をもとにウルグァイに帰国してから当初の目的であるサービス会社の設立に向け

一歩一歩前進していきたい。

㈱東芝での窓口をしていただいた海外サービス部の方々をはじめ，研修先で温かく担当をしていただいた方々に感謝します。そしてこの機会を与えていただいた国際協力事業団の方々にお礼を申し上げます。

亀　田　禎　夫

1. 研修機関　(1) 前期　宮崎県農協果汁㈱

　　(2) 後期　〃

2. 研修期間　昭和61年4月～昭和62年9月

3. 研修職種　食品加工（農産物，果実等の加工技術）

4. 当初の研修計画

ドミニカ共和国では，色んな果物が出来ます。特に熱帯地方で出来る果物は，マンゴ，パパイヤ，パッションフルーツ，グァバ，パイナップル等です。

ドミニカ共和国の人達は，このような果物をほとんど生果のままで食べますが，時期的には生果のままで食べきれないほどの収穫があります。ドミニカ共和国では農産物（果物等）の加工技術があまり進歩していないので，加工して食べる事が少ないです。従って加工技術を学ぶ事を決心しました。

5. 研修概要

研修計画

講義　○農産加工概論

○加工原料

○食品衛生

○加工機械

○瓶詰，缶詰（果物，野菜）

○飲料

○品質管理

○伝統食品（瓶詰，缶詰以外の加工法）

○食品添加物

○加工機械（果実及び農産物の加工に伴う工程管理等の修得）

○容器包装（上記処理により発生する加工品の容器，形態及び種類，目的，効果等を主体に内容修得）

○農産加工

○冷凍苺（加工原料）

○〃メロン（　〃　）

○〃キウイフルーツ（　〃　）

○グァバ（　〃　）

○パッションフルーツ（　〃　）

○南瓜冷凍（ペースト，スライス）

○冷凍ピーマン（スライス，半割り）

○〃さといも

○〃大根

○〃苦瓜（スライス）

○〃ごぼう（スライス：せんぎり，ささぎり，スティック）

○〃にら

○〃からいも（ペースト）

○〃人参（　〃　）

○野菜搾汁，加工原料として（セロリ，パセリ，レタス，ホーレン草，人参）

○果実飲料，ジャム類，マーマレード，果実缶詰

○オレンジジュース（100％天然果汁）

○レモンドリンク（10％果汁入り清涼飲料）

○パインドリンク（20％，30％　〃　）

○グレープフルーツドリンク（　〃　）

○グァバドリンク（20％，30％果肉飲料）

○ジャム類（苺，リンゴ，パイナップル）

○マーマレード類（日向夏，レモン，甘夏）

○みかん缶詰（シロップ漬け）

○パイナップル缶詰（　〃　）

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当修の研修計画と実際の研修と比較して，思ったよりも色んな事を学びました。加工技術として，製造規格，製造工程他様々な技術を学びました。その他日本でめずらしい熱帯地方で出来る果物，グァバ，パッションフルーツ（果物時計草）の加工原料。

仕事の状況の中で色々と悩みもありましたけど，それ以外は僕の研修は大変よかったなあと思います。

7. 合同研修会について

合同研修会について，僕の意見としてこれは一番の楽しみでした。南米のそれぞれの国から来てる研修生達と言葉の交換等があり，こんな機会は初めての経験でした。日本語講習，旅行，合同研修会があった時も互いにみんなで一緒に楽しくやっていく事が出来ました。決して忘れる事が出来ません。

8. 本邦での生活状況

この1年6カ月の間は色んな経験をしました。最初，日本に来た時は環境になれなくて少し不安でした。日本に来て初めて家族から離れました。このため，日本で暮し始めた時に影響があってホームシックにかかったりしました。

宮崎県の生活では，最初こまったんですけど，だんだん自分が努力して最後まで頑張りました。一番よかったなあと思うのが，会社の人と矢野さん夫婦（住んでた所）がとても親切にしてくれたことです。それからとてもいい友達も出来ました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

特に書く事がありません。

10. 所感

日本の国は決して忘れる事が出来ません。1年半も日本で生活して，いままで色んな所を見て，それから様々な人と会って大変勉強になりました。

宮崎県の四季も体験して，これが印象に残りました。特に，夏と冬，一番なれにくい二つの季節でした。

帰国後は，日本でならった事をドミニカ共和国で実施出来るでしょうか？どういうふうに役立つのだろうかまだ確実にわかりませんけど，出来るだけ活躍したいと思っております。

国際協力事業団のみなさん，宮崎県農協果汁㈱のみなさん，それからお世話になった人達に心から感謝しております。有り難うございました。

国際協力事業団熊本出張所のみなさん，長い間お世話になりました。日本の事それからみなさんの事も，ドミニカ共和国へ帰っても忘れる事が出来ません。きっとまたみなさんに会える日が来るだろう，その日を是非とも期待しております。まことに有り難うございました。さようなら。